

特定非営利活動法人 岐阜精神保健福祉会連合会（ぎふかれん）

あゆみ 2020 年度（46 周年）

2021 年 3 月発行

「岐阜県精神障害者家族会連合会」（ぎふかれん）設立 昭和 49 年 9 月 13 日（1974 年）
NPO 法人化（特定非営利活動法人）（法務局登記） 平成 12 年 7 月 21 日（2000 年）
「NPO 法人 岐阜県精神保健福祉会連合会」（ぎふかれん）に名称変更（法務局登記）
平成 20 年 7 月 28 日（2008 年）



この冊子は、岐阜県共同募金会のご寄付で作成いたしました

目次

「あゆみ」発行に当たって（理事長あいさつ）	理事長 服部 信子	1
祝 辞 ・ 投稿文		
ご祝辞	岐阜県知事 古田 肇 様	2
ご祝辞	岐阜県精神保健福祉センター 所長 丹羽 伸也	3
ご祝辞	岐阜県精神保健福祉協会 会長 田口 真源	4
ご祝辞	社会福祉法人 舟伏 副理事長 森 敏幸	5
ご祝辞	岐阜県精神保健福祉ボランティア連絡協議会 会長 篠田 恒之	7
思い出	カモミールの会 元会長 南部 紀子	8
思い出	岐阜市あけぼの会 会長 熊谷 久子	9
思い出	岐阜県精神保健福祉社会連合会 顧問 中村 剛	10
思い出	青葉の会 会長 大下 恵子	11
思い出	岐阜県精神保健福祉社会連合会 前理事長 山田 偉雄	12
I : 「ぎふかれん」の設立と経過		14
1) 岐阜県精神障害者家族会連合会（略称：ぎふかれん）の設立		
2) 岐阜県の家族会・作業所の設立		
3) 歴代会長・理事長名		
4) 役員名		
5) 受賞者		
6) 経過（NPO 法人化・名称変更・現体制・会員数）		
II : 「ぎふかれん」の活動		28
1) 県大会の開催		
2) 甲州・東海ブロック大会、みんなねっと全国大会		
3) 啓発事業（研修会の開催）		
4) 電話相談事業、面接・メール相談		
5) 機関紙の発行		
6) 作業所交流会（平成2～28年）		
7) 家族支援事業（平成22～24年）		
8) 要望活動 ①精神障害者保健福祉手帳		
②交通運賃割引運動		
③医療費公費負担運動		
④その他		
9) 他の障害者団体との連携		
III : 世界・日本・岐阜県の動向		55
手帳・障害年金・医療費等		
IV : 家族会紹介（11の「ぎふかれん」加盟の家族会、その他）		57
編集後記		

令和2年度（2020年度）「あゆみ」発刊にあたって

岐阜県精神保健福祉会
理事長 服部信子

岐阜県精神保健福祉会（ぎふかれん）は昭和49年（1974年）に設立され、半世紀を迎えようとしております。事務所の書類・資料も散逸しがちの為、今のうちに「ぎふかれん」の歴史「あゆみ」を作成しようと思い至りました。

2018年に呉秀三のドキュメンタリ映画「夜明け前」を見ました。この映画は副題が「呉秀三と無名の精神障害者の100年」で、呉先生が1918年（大正7年）、調査報告書を発表してから100年の節目で作られました。当時の患者の無権利状態と、呉先生を始め多くの人々の努力を知りました。

10年ほど前に息子が精神科病院に入院し、直ぐに家族会に入会しました。医療費無料制度はすでにありました。「岐阜市あけぼの会」へ行くと、おじいさんが「医療費無料化は我々家族会の運動で実現したものだ。」と発言されました。初めは感心しましたが、毎回、長々と発言されるのには、閉口しました。しばらくし、おじいさんは今村辰司さんで、家族会の運動の先頭に立った人だと知りました。今回、「あゆみ」をまとめ、医療費無料化は家族会設立時の目標であり、皆さんの長年の運動の成果だと分かりました。先輩の方々に感謝いたします。

今年度は、新型コロナウイルス拡大で、毎年3つの研修会は春を秋に延期したり、三密防止の為に大きな会場に変更したり、事前申込で参加者の連絡先をお聞きしたり、皆さんにご迷惑・ご協力を頂きました。

「あゆみ」編集会議や関係機関への確認作業もコロナの為、頻繁には出来ず、前理事長の山田さんに資料を集めて頂きました。主に機関紙「ぎふかれん誌」を調べてまとめましたが、発行されなかった年もあり、欲しい情報が無いことも多かったです。総会資料も古いものは廃棄され、空白を埋めるのに大変でした。

今回の「あゆみ」作成にあたり、お忙しいのに原稿を頂いた皆さんに感謝いたします。正確な記述に努めましたが、私ども家族が作成しておりますので間違いもあると思います。ご指摘下さい。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

当事者・家族の皆さん、先輩に感謝しつつ、共に頑張りましょう。

ご 祝 辞

岐阜県知事 古田 肇

岐阜県精神保健福祉会連合会の創立46周年を記念して、貴会のこれまでの「あゆみ」をご発刊されますことは誠に意義深く、心よりお喜び申し上げます。

精神障がいがある方のご家族である皆様におかれましては、これまで約半世紀にわたり、何かとご苦勞の多い中でご活動なされてきたことに対し、深く敬意を表します。

さて、精神障がいがある方を取り巻く環境は、近年大きな動きがありました。

平成28年4月に「障害者差別解消法」が施行され、本県においても「岐阜県障害のある人もない人も共に生きる清流の国づくり条例」を制定し、県、障がい者関係団体、市町村が一体となり、差別をなくし、障がいのある人とない人の交流促進などに取り組んでいるところです。

平成30年4月からは、障害者雇用義務の対象として精神障がい者が加わり、民間企業で活躍する精神障がいがある方が増加し、地域の一員として共に暮らし、共に働くことが当たり前の社会の実現に近づきつつあります。

さらに、「入院医療中心から地域生活中心へ」という理念のもと、精神障がいの有無や程度にかかわらず、誰もが地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労）、地域の助け合い、教育が包括的に確保された地域包括ケアシステムの構築を目指す必要があります。

本県においては、計画的に地域の基盤を整備するとともに、市町村や障害福祉・介護事業者が、精神障害の程度によらず地域生活に関する相談に対応できるように、圏域ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場を通じて、精神科医療機関、その他の医療機関、地域援助事業者、市町村などとの重層的な連携による支援体制の構築に向けた取組を進めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

最後となりますが、岐阜県精神保健福祉会連合会の益々のご発展と皆様方のご健勝とご健康を心から祈念いたしまして、祝辞とさせていただきます。

『セルフヘルプ活動の展望』

岐阜県精神保健福祉センター
所長 丹羽 伸也

現在、精神障害者家族会は、全国的にも会員の高齢化や会員数の減少など共通の課題があり、会の組織強化、時代や地域に見合った家族会活動の展開、主体性と協働意識を育む運営体制の整備、活動を支援する外部の関係機関との連携強化の必要性、等が指摘されている。この30年で高次脳機能障害や発達障害などの当事者団体の、それぞれ特性に合わせた独自の活動が進んでいった。それぞれの障害特性に合わせてサービスは構築されねばならないが、各々の活動の共通項もまた大切である。セルフヘルプ・グループは、家族同士が悩みを語り合い、支えあう場を提供するだけでなく、学習の場となって精神保健福祉の推進に働きかけるなど、現在ではなくてはならない地域資源の一つとなっている。回復者のエピソードや再発からのリカバリーなど様々な情報の蓄積の場としてメンバーに有用な情報を提供することも多い。統合失調症発症が思春期前後に多く、その経過において慢性化・長期化しやすく、その予想は困難で、生活を共にする多くの家族はその渦中で悩み苦しんでいる。「ケアの担い手としての家族」から「支援そのものを必要としている家族」としての認識が深められ、例えば「精神障がい者の自立した地域生活の推進と家族が安心して生活できるための効果的な家族支援等のあり方に関する全国調査」では、家族の経験として、本人の病状悪化、行動変容時に意思疎通がうまくできない等、多様な症状の対応に苦慮し、そうした家族の精神的健康状態について、うつ病や不安障害を発症する可能性が高いことが示されている。家族の介護負担を軽減する支援体制の構築が求められており、多くの家族が精神保健等の専門職が訪問して本人に働きかけることを望んでいる。医療機関で訪問型の精神科医療の提供を開始されたところもあるが、市町村への業務移管が進展する中、家族会に関する市町村における支援、その支援者に関する支援、継続的支援等について、今後も関係機関の連携を進めてゆく必要がある。

ご 祝 辞

岐阜県精神保健福祉協会
会長 田口 真源

2020年度「あゆみ」の発刊おめでとうございます。

2020年度はコロナに振り回された一年でした。みなさんいかがお暮しでしょうか？アフターコロナには精神保健の領域でも様々な問題が噴出して来るかもしれませんが、まだ、コロナ禍の真っ只中であり、今はまだ潜航期であると思うのであえて触れません。

さて、私は2014年に精神保健福祉協会の会長を拝命しましたが、それ以前より精神保健についていろいろ考えてきました。その間に精神保健福祉法改訂や自立支援法制定などがあり、精神保健福祉の領域が色々な領域の概念を含むことになり、何を目標にするべきは、かえって曖昧になってしまったように感じています。思い切って「健やかな社会生活を営むこと」ぐらいに簡潔にしてはどうかと考えています。

スポーツの世界で心・技・体という言葉があります。元々、相撲の世界から派生しているといわれており、技や体力の前に精神力を強調していましたが、現在スポーツの世界は心（メンタル）と技（スキル、テクニク）と体（フィジカル）のバランスがパフォーマンスを発揮する上で重要であることを意味しています。健やかな社会生活を営むためにもこの心・技・体は是非必要ですが、いままでの精神保健はある意味、技（スキル、テクニク）と体（フィジカル）には注意を十分にはらってこなかったように思います。もちろん心（メンタル）は健やかであるべきですが、「幻覚」や「妄想」の治療のみでは「健やかな社会生活」を送るための条件をみださないと思います。仕事に必要な「技」の機能は「注意」、「意欲」、「情動」、「作業記憶」、「遂行機能」などが必要とされています。これらは主に「認知機能」と呼ばれるものに含まれます。例えば易疲労性という概念があります。注意力の低下を補うため、過度な努力が必要な単語学習課題などをしてもらおうと、健常者より高い認知的努力（cognitive effort）が必要であるというものです。つまり、課題で同程度の成績を得るために頑張らないとできないので、疲れてしまい、長い時間安定した成績が継続できないことです。職場へ提出する診断書によっては、就労上注意すべき点について「短時間の作業が望ましい」などという診断書をまだ多く見かけますが、結果として判断を職場に押し付けて自分の責任を回避するだけにしかありません。職場はどうしても、8時間の勤務の中での仕事量と質をみますから「やればできるのにサボっていてあてにならない」という誤解につながります。これは偏見でもなんでもなく、きちんと伝わっていないことが原因です。

「あゆみ」（46周年）の発刊によせて

社会福祉法人 舟伏
副理事長 森 敏幸

以前に、我が国の精神障害者家族会の活動の歴史を調べたことがありました。今では調べた文献が何だったか記憶にないのですが、最初の活動は、昭和39年9月にスタートした茨木県の友部病院や東京都立松沢病院などの家族会だったと記憶しています。

これは、あの「ライシャワー事件」が同年6月に発生し、多くのマスメディアがこぞって「精神病者野放し」のキャンペーンを張った社会情勢に抗し、また、精神衛生法の改正に向けて家族の声を届けようとてスタートしたものでした。

その頃の岐阜県内の状況を調べてみたところ、なんと同じ昭和39年9月に、岐阜病院（当時は社団法人岐阜精神病院）でも家族会が立ち上がった記録を目にしました。（会長 久野貞三氏、副会長 岩田正一氏）

全国の動きに立ち遅れることなく家族会がスタートできたのは、開校間もない日本福祉大学を卒業して岐阜病院に勤めたワーカー（現在の精神保健福祉士）さんたちの力が大きかったようです。半世紀以上前のことです。

その後、副会長の岩田正一さんが、岐阜病院だけでなく色々な医療機関を利用している家族も一緒に活動する必要があると、昭和46年に地域家族会「岐阜市あけぼの会」を立ち上げました。このあけぼの会は、なかなか活発な活動をしていたようです。その一つに現在の生活訓練事業に該当するような施設が必要だとして「向道苑コロニー構想」を打ち上げ、岐阜駅前のビルの所有者だった木村文三さんという財界人から100万円の寄付を受けています。構想は実現できなかったのですが、その後、国民健康保険の3割の自己負担分を1割に軽減する岐阜市の制度を実現したりしています。その後、昭和58年6月1日に県内最初の精神障害者の小規模作業所「長良共同作業所」も岩田さんが会長時代に開所したものです。（現在の「あけぼの苑」の前身）

私は、昭和57年4月に県の精神衛生センター（現在の精神保健福祉センター）にワーカーとして勤めることになり、そして岐阜県精神保健福祉会連合会の前身である「岐阜県精神障害者家族会連合会（県家連）」の事務局を担当することになりました。これが縁で多くの家族の皆様との交流が始まりました。

当時、県家連の会長さんは、岐阜精神病院家族会の会長を兼ねておられた酒向岸さんという方で、娘さんへの思いや家族としてどうあるべきかなど、ご自身の体験を語られるのですが、多くのご家族の胸を打つとても感動的なお話をされる方でした。通院日にバス停で娘さんがバスを待っているのですが、近所の方が同じようにバスを待っておられ、立ち話になり娘さんのことを尋ねられると、包み隠さず病気のことや病院への通院でバスを待っていることをお話しされ、もし一人で通うような時に、「本人が何かに困っているようなことがあっ

たら、是非声をかけていただきたい。」とお願いしているのですと語られたお話が忘れられません。

昭和60年頃だったと記憶に残っているのですが、全国の家族会が家族の窮状や色々な福祉的な制度の実現に向け、全国キャラバンを実施しました。そして、キャラバン隊が岐阜に来た時に、新岐阜駅前「精神障害者家族会」の文言が掲載されたタスキを掛け、幟を立てチラシを配ることになりました。誰がチラシ配りをするのかが役員会で話し合われたのですが、どの方も二の足を踏まれた中で、会長の酒向さん、副会長の岩田さんのみが私と一緒に配布することになりました。

チラシをなかなか受け取っていただけないし、受け取っていただけたと思ったら、クシャクシャに丸めて投げつけられるという辛い場面もありましたが、何人かの方から激励の言葉を掛けられ、胸の熱くなる思いがしたものです。

昭和50年代の後半は、全国的にも家族会活動は活発で、県内もいくつかの家族会が立ち上がり、その活動の中心が小規模作業所の運営でした。どの保健所も保健師さんが熱心に家族教室を開催し家族の活動を盛り上げる雰囲気がありました。

私は県庁を退職し、平成14年4月に社会福祉法人清穂会を立ち上げ福祉工場と支援センターの運営を開始したのですが、施設建設を行った平成13年という年は、あの6月に「池田小学校事件」がありました。そして、精神障害者に対する逆風は住民からの施設建設をボイコットする運動となりました。そんな中で私が苦勞しているのを高齢で寝たきりに近い状態にあった岩田さんが、随分気にしていただいていたようでした。施設がオープンして間もない時に、娘さんに車イスを押してもらって施設を見に来られ、周囲を憚ることなく泣きながら私の手を取り、小さな擦れるような声で「ありがとう、ありがとう」と何度も何度も繰り返されたあの姿は一生忘れることができません。

私が、施設建設の反対の声を受け、何度かの住民説明会や反対しておられた何人かの方の家に説明とお願いに回り、何とか施設開設ができたのは、若い頃に岩田さんや酒向さんに出会うことができ、お二人の真摯な姿を目の当たりにしていたからだったと思います。

以前に比べ福祉の制度や施設などが整ってきた中で、家族会の活動も変化をしてきているように思います。家族会の皆さんと交流があったとき、よく「家族会は何をなすべきか」という話題が出て話し合うことがありました。身体障害者や知的障害者の制度や施策に追いつけの思いが強く、どうしても制度や施策の実現を目指す運動体としての活動が欠かせませんでした。

現在の精神障害者に関する福祉や医療の制度や施策は、まだまだ家族を支援するサービスが少ないように思います。身近な地域の中で家族を支えるサービス、社会資源を作り上げることが必要になってきているように思います。そのために家族会の役割はますます大切になってくるのではないのでしょうか。

「あゆみ」発行を祝して

岐阜県精神保健福祉ボランティア連絡協議会
会長 篠田 恒之

このたび、岐阜県精神保健福祉社会連合会（ぎふかれん）の設立から半世紀を迎えようとして、そして御誌「あゆみ」の2020年度版（46周年）の発行は、誠に喜ばしく、心よりお祝い申し上げます。半世紀の間、長く続けてこられたことに、敬意と感謝を申し上げると同時に驚きと羨望を私たちに与えました。本当におめでとうございます。

さて、私たちの精神保健福祉ボランティア協議会は、徳満治氏が会長職を務めてこられ、去年から私が引き継ぎました。まだ、わからないことが山積ですが、私の本職は障害者施設の支援と運営をさせて頂いておりますので、その支援専門職として貢献できると考え、この仕事を引き受けさせていただきました。

精神保健については、身体・知的障害者は比較的早く支援がなされてきましたが、歴史を振り返ると、呉秀三先生が精神障がい者について支援を確立するまで、ご家族は大変な思いをされてきました。法律もなかなか対処できておりませんでした。法律も改善され、現在は、精神障がい者は個人の尊厳を保持しつつ心身ともに健やかに育成され、その能力に応じ自立した生活を地域社会において営むことが出来るようになりました。私たちボランティアは微力ではありますが、担い手として少しでもお手伝いできればと願っております。

「あゆみ」発行46周年誠にありがとうございます。

『家族会の皆様に 沢山の感謝を』

精神保健福祉ボランティア カモミールの会
前会長 南部紀子

当会は'98年に精神保健福祉センター主催のメンタルヘルズ講座修了後にセンター長だった故池田修康先生が「心の病をお持ちの方々のサポートをしてくださる方は、ありませんか？専門家に出来ないところを普通の方に埋めていただきたいのです」という呼びかけにに応じて出来た団体です。ほとんどが専門知識がない主婦でしたので、センター開催のデイケアで実習が行われ、私は第1回目の音楽療法の時間に配置されました。その時、家族会の事務局の熊沢さんが「家族以外の方が、関わってくださるなんて夢のようです。どうぞよろしく願いいたします。」とおっしゃいました。立ち上げの準備をしていた'99年の4月に池田先生がお亡くなりになり、会は暗礁に乗り上げましたが、先生が「家族会や日曜会の交流から始めたら」とおっしゃっていたので、ご挨拶に伺いました。

その年の11月に「羽島での心の健康フェスティバルのお手伝いを」という声がかかり、二つ返事で参加し、全家連（全国家族会連合会）発行の専門誌の販売を担当しました。修了後、熊沢さんが「今日は皆様方のおかげで、ゆっくり講演などを聞くことが出来て、とてもうれしく思います」と言われたときは、私達もとてもうれしかったです。その後は、県の家族会大会、東海ブロック大会などに参加させていただいていました。

家族会の重要性を知ったのは、その頃です。羽島では新聞社の取材もあり 当会のことも新聞で紹介されたので、何人かの方から電話をいただきました。ある女性が「分裂病と診断され、育て方が悪かったのかと考えて、毎日泣いて暮らしています」と言われたので、乏しい知識を振り絞りつつ「家族会とか保健所に相談されたいかがですか」とお答えしました。半年後の大垣の県大会の時、「あのとき電話したのは私です。家族会に入れていただき、こんなに元気になりました」とおっしゃったので「良かったですね」と手を取り合って飛び上がりました。横のつながりの大切さを、つくづく感じました。

熊沢さんが「今まではお知らせの印刷などは、センターにおんぶにだっこだったのですが、今年からはこちらでといわれ困っています。」とおっしゃったので、当会から一人毎週一仕事局のお手伝いに伺いました。（6年間ほど）その頃、事務局にパソコンが入りました。

'01年にはボランティアも3団体になり、『知ってもらいたい心の病』という当事者の方々や家族の方々の生の声を聞いていただく講演会を開催することになりました。おおむね好評で年2回開催していましたが、その後ボランティアも高齢となり、当時の今村会長さんと相談して、家族会と当会が1回ずつ交代で開催することになりました。

家族会の大会などを通じて、県内の多くの家族の方々から 沢山の事を教えていただきました。当会でも年6回の学習会を開催したり、学習会にも参加して学んでいます。家族会の方々から学んだことは、筆舌に尽くせないほど大きな宝物となっています。

感謝の言葉とともに、ますますのご発展とご繁栄をお祈りいたします。

「岐阜市あけぼの会」の思い出

岐阜市あけぼの会 会長 熊谷 久子

私があけぼの会に入会させて頂いたのは平成13年頃だったと思います。息子の入院先の待合室(岐阜病院)に置いてあったあけぼの会のチラシを見たのがきっかけで、日光町の例会に参加させて頂きました。今村会長に「お姉さんですか？」と声を掛けられ、緊張がほぐれました。

保健所、県会議員さんへの陳情によく同行させていただきました。

平成14(2002)年3月

役員の方々の力で第3あけぼの苑が折立に開所しました。役員の故岡田さんのお知り合いの方の一軒家を借りられ、一階で作業、二階が休憩室。部屋数が沢山あり、皆でよくゲームをやったり、マージャンを教えてもらったり、今は立派なDrになられた岐阜大学精神科の学生さんも加わってキャンプに行ったり…楽しい思い出ばかりです。

障がい者自立支援法が出来るまで、作業所には良く家族が作業を手伝いに来ていました。今村会長がヤマニパッケージの仕事を飛び込みで貰って来てくれました。今村会長は昔、バリバリの営業マンだったそうです。納期が間に合わないときは家族みんなに電話して手伝いに来てもらっていました。その頃は家族会の役員が各施設の施設長をボランティアで務めていて、私は芥見あけぼの苑(旧琴塚)の施設長をしていました。介護の仕事をしていましたので、夜勤明けの週2日ほど様子を見に行きました。(私も若かった)

その頃良く今のサンライズ理事長の鶴飼武彦氏が、「報酬の取れる施設長にせなアカンな！」と試してみえました。(先が見えてましたネ〜)月に一回の食事会、年に一回のバス旅行。サイコリンピックにも参加して、応援合戦、50メートル走、パン食い競争など。私の息子も一生懸命走りました。作業所交流会でバレーボールや、長良川河川で野球大会もしました。日曜会では、ほのぼの会やカモミールの会のボランティアの方々のお世話でモンキーパークへ行ったことが思い出です。懐かしいー!!

平成16(2004)年8月12日、作業所は法人格を持たないといけないということで特定非営利活動法人あけぼの会となり、鶴飼武彦氏に理事長を御願いし、家族会のあけぼの会とは運営が分かれしました。サービス管理責任者がなかなか決まらず、私が丁度福祉の国家資格(介護福祉士)を持っていたので、介護の仕事を辞めて相談支援従事者養成研修を受け、3施設のサビ管になりました。

平成20(2008)年、最初の頃は60〜70人程の利用者の顔を覚えるだけで精一杯でした。その頃事務所を今の大宝町に移し、清本町の第2あけぼの苑を第一あけぼの苑として三歳町に、芥見の第一あけぼの苑を第2あけぼの苑とした。その後家族会とよく間違えられる為、サンライズと社名変更する。その後鶴飼理事長はグループホームを3カ所、利用者の就労研修の場として喫茶店を2ヶ所開所される。

あけぼの会のお仲間に入れていただき、色々な相談、お世話になった方々も段々歳をとられ例会に出席されなくなって、寂しいです。精神に関する法律も情報を得る手段も色々変わってきましたが、やっぱりお互いの顔を見ておしゃべりする会、勉強しあう会が家族には一番だと思います。私の今あるのは「岐阜市あけぼの会」家族会のおかげです。有難う御座います。感謝、感謝。

「思い出」

岐阜県精神保健福祉会連合会

前理事長 中村 剛（平成12年10月24日記）

初めに ぎふ清流大会で、10月13日（土）宮内庁（皇太子殿下）主催 掲題の御会食にご相伴するという、全く思いがけない経験をした。

場所 大会役員のうち、福祉関係者は開会式典が終了してすぐに岐阜県が用意した車で、御会食会場の岐阜グランドホテルへ向かい、一階「ルミエール」の御会食会場でしばらく待機となった。

お相伴 12時25分頃皇太子殿下が宮内庁のお付きの人々を従えて、席に着かれた。

「皇太子殿下はみなさまとお話できる機会を楽しみにしているとのことですので、楽しい会食となるよう、積極的にご発言下さい。」というお達しだった。

私は古田知事の右隣、知事の左隣が皇太子殿下だった。皇太子殿下のスーツ上下は水色に近い、若草のような色とそれに合わせたネクタイで、品のいいスーツだった。殿下のにこやかな笑顔で、ごく自然に会食が始まった。和紙に書かれた「御献立」は品数が豊富で、緊張のせいもあって「これはなに」とゆっくり味を確かめなかったのは残念な気がする。結構なお味だった。会食の途中で、ごく自然に殿下との会話が続けられた。知的障害者が演奏を大会で披露できるまでの練習過程を殿下に紹介しながら、県知的障害者支援協会会長・小坂孫次さんが熱を込めて知的障害者支援の実状を詳しく話された。殿下は会食者の話に笑みを絶やさず聞き入っていた。

会食の中頃になって、古田知事から「何かお話ししといた方が良いですよ。」と促されたので、「岐阜県精神保健福祉会連合会理事長です。」と名乗ってから、殿下に大略以下のことをお話しした。

- ① 精神科の医師のレベルのばらつきが、臓器や器官のような物(substance)を治療対象とする内科、外科その他の科の医師達のレベルのばらつきにくらべて激しく、これはどうかなという医師もいる。そんな医師が経営する病院やクリニック等であっても、行政の病院案内から削られることはない。病を抱えて最初にそんな医師にかかったら悲劇的だ。これを未然に防ぐには、精神科医のブラックリストをロコミで会員や非会員の患者や家族に伝えなくてはいけないのかなあと思う。
- ② 統合失調症の場合、現在は薬だけでは治癒は難しく、「人薬^{ひとぐすり}」や「時間薬^{じかんぐすり}」が大切であること。（私はこの二つの言葉を精神科医の夏苅郁子さんの著書を最近読んで知ったのだが、殿下はご承知の様子だった。）
- ③ それでもやはり新薬による治癒を夢見ていること。特に山中教授のiPS細胞の研究からそのような新薬が生まれまいだろうかと期待している。

③ で [iPS細胞] と口にしたとき、殿下は「あれはすばらしい研究ですね。」と引き取られ、会食の話題は自然にiPS細胞の研究に移った。

古田知事にお礼申し上げ 会食が終わり、殿下をお見送りして歓談していた折に、今村辰司氏が理事長だった平成18年12月に古田知事の記者会見で、精神障害者にも医療助成制度が適用されたこと、すなわち「精神障害者にも身体障害者や知的障害者と同等の重度心身障害者医療助成制度適用により医療費全科目無料として頂いたことを当時の今村理事長が一度お礼を申し上げていることを古田知事にお話し、私は患者や家族の深い感謝の気持ちを述べて今一度古田知事に御礼申し上げた。知事は「そのようにお役に立っているなら良かった。」とおっしゃった。

「思い出」 県家連のあゆみ

青葉の会（高山市の家族会）

会長 大下 恵子

高山市に精神障がい者家族会「青葉の会」が発足したのは、30 数年前の昭和 60 年でした。病院家族会は有りましたが、地域家族会として、飛騨保健所の指導の元で始まりました。家族同士が繋がり支え合いたい、又、苦しみの中にある当事者をどれだけでも理解したいとの思いによる学びの場でもありました。

飛騨圏域には、外にも丹生川家族会、下呂家族会、古川家族会等があり、それぞれ地域で活動し、「岐阜県精神障害者家族会連合会」（県家連）にも加わっていましたが、次々と高齢化等で継続が困難となり、現在（2021 年）は「青葉の会」のみとなっています。

今でこそ精神障がいの問題は、日常的に取り上げられ、一般の理解も深まり、広く各方面で受容されつつ有りますが、家族会や作業所が地域に発足した当初は、統合失調症が「精神分裂病」と言われるなど、さまざまな偏見や差別の中で、当事者は無論のこと、家族もたいへん生き辛い、肩身の狭い思いをしたものです。

家族会では、何とかこうした偏見・差別を無くして精神の障害を理解して欲しい、当事者も家族も生きやすい社会になって欲しいと願いながらも、小さな家族会だけでは限度があります。やはり、同じ苦しみや思いを共有できる地域の家族会同士が一つとなる組織が必要であり、その面で全家連や県家連の存在は一貫して大きな力でした。県家連（現・岐阜県精神保健福祉会連合会）には、事務局の運営が困難な一時期が有りましたが、それを乗り越えながら、終始より良い精神障がい者福祉の向上に向けて取り組んでいただきました。こうした大きな組織を支えとした、偏見・差別の解消を求める署名活動を初め、国や県・地方自治体に対して成された陳情・要望、他障がいとの福祉サービスにおける格差是正等さまざまな働き掛けが、その後の精神障がいに対する社会的な理解や啓発の推進に繋がって行ったのだと思います。

又、精神障がい者を理解し、サポートしようと立ち上げられた岐阜県精神保健福祉ボランティア連絡協議会の存在も大きかったと思います。「外に向けてもっと発信しなさい」と背中を押してくださり、徐々に家族も目が開かれて行きました。今日では精神障がいに対する一般の理解も深まり、各種福祉サービス等も向上し、随分生きやすい世の中になって来てはありますが、さらに誰もが安心して暮らせる社会を目指して努力しなければならないと思っています。

「中濃わかば会」・「ぎふかれん」との関わり（思い出）

岐阜県精神保健福祉会
前理事長 山田偉雄

娘の発病（30年前）以来、通院、入院、作業所入所全ては、妻が一人で対応、精神的にも苦勞したと思います。作業所の家族代表としても頑張っていました。当時の作業所長より「旦那に会いたい」と呼び出され、家族会長を頼まれました。候補は二人、もう一人の方は私より適任に思われましたが、親一人子一人仕事も大変とのこと。私も別の勤務があったので、一応は断りましたが、彼を副会長にすることで、結局引き受けることに。当時は知らなかったが、小規模作業所はNPO法人化が義務付けられていました。少し経ってから、私宛に所長の辞表が提出され、仰天、急いで次の所長探やNPO法人化へ向けて苦悩しました。現在の所長を見つけ、何とかNPO法人化を完了。当時の状況ではB型作業所はとても無理、地域支援センターで出発しました。法人化後、作業所と中濃わかば会とは別組織に、総会等は別々で実施。

家族会活動としては、月1回の例会（主に情報交換・勉強会）・わかば通信発行に専念してきました。「ぎふかれん」理事長就任を期に、会長と編集それぞれ適任の後継者にバトンタッチできたことは幸運でした。当時の患者の治療は患者の生活環境も重要であったが、ほとんどが病院中心、施薬中心で、今日のような患者中心の理念は少しもなかった。オープンダイアログ的な考えを知りませんでした。もっと早くからあったらなあ、今からでも普及できればと思います。

ぎふかれんとの関わりは、平成18年の理事会参加からでした。当時は今村理事長が議事をてきぱきと進めておられました。自信に満ちた話しぶり感心しました。「なににもわからないのでよろしくお願いします」と話すと、「いやでも覚えるようになるから」との返答でした。電話相談での相談者の苦悩などの解決を行政等に訴えられていました。

次の今理事長は、一理事との付き合いでよく分かりませんが、「岐阜にACTを」との強い信念の方だと思っていました。そのころ、事務局の安藤さんのお手伝いで「ぎふかれん」誌の編集に携わっていました。安藤さんは、今村・今さんの運転手としても活躍されていました。今さんの任期後半は、病気のため大変だったようです。

中村理事長の選出にあつたては、固辞されたが、当時の副理事長等の説得で就任。理事会参加経験のない方が、すぐに理事長ということに違和感を感じました。これが、後の私の理事長就任時の「岐阜市あけぼの会」からの理事3名選出につながりました。中村さん時代の2年目に牧野副理事長が急に亡くなられ、代わりに副理事長に就任しました。このころより、

「ぎふかれん」との関わりは多くなりました。衆参議員会館へJR署名簿提出など記憶に残った事柄です。

余談ですが、中濃地区の家族会の現職会長3名（可茂家族会：金子氏・郡上つくし家族会：牧野氏・青木氏は急死）が亡くなられ、3回葬儀に参加しました。親しく付き合っていた方々でとても残念なことでした。中村理事長は、コンピュータの活用を進め、たくさんのメールをいただきました。事務局の石山さんとは5時過ぎまでよく話したりしました。当時の事務局は人が少なく寂しい限りで、よく各理事の「手助けが欲しい」との石山さんの弁。

私の理事長時代は、服部副理事長ともども事務局の財政改善問題に苦心しました。ボランティアで協力いただいた事務局の前田・筒井・恩田各氏には感謝いたします。

現在服部理事長の事務局は、大変活発になり、いつも賑やかな部屋に一変しました。事務局の努力の結果と思っています。私までの4代の理事長時代、それぞれ会の運営などを巡り大なり小なりの路線対立がありましたが、「雨降って地固まる」の例えのごとく、今は順調そのものと安堵しております。令和2年度は、「あゆみ」の編集・資料集に関わりました。初期・中期の役員の熱意や、多くの家族会・会員の加入が見られます。皆が集まり話し合い・勉強し・団結しなければとの思いが強かったためと思います。その後、家族会の運動等の結果、医療費助成、年金、バス運賃の半額その他福祉行政支援等の環境が徐々に改善してきました。しかし、どうした訳か家族会・会員の減少が進み、新しい会員の定着は進んでいません。会員の高齢化が進み、家族会のリーダーの世代交代問題が顕在化しています。何らかの企画で、若い方の参加を期待したいところです。

私の「ぎふかれん」との関わりは15年間、多くの方々に巡り合い、ご助力いただき、有難うございました。今はすべてが懐かしく思われてきます。

I : 「ぎふかれん」の設立と経過

1) 岐阜県精神障害者家族会連合会（略称：県家連・ぎふかれん）の設立

・設立前の状況

精神疾患は治療薬のない不治の病とされていたが、昭和 30 年代頃より新しい抗精神病薬が使用されるようになり、薬物療法が推進されてきた。

精神病院では、新しい薬での治療効果を高めるために、家族を集めた説明・学習会が開催されてきた。一方、家族は障がい者を抱え、家庭での対応、社会の差別・偏見などの精神的苦痛、入院・治療費など生活面の悩みが大変であった。

各地で、同じ悩みを持った家族同士の寄り添いの場、勉強の場として、保健所などの指導の下、地域家族会が結成されてきた。

また、社会・家族自身の偏見解消、障がい者・家族の福祉（行政の支援、社会資源の設立など）の実現を目指し、各県で、病院家族会・地域家族会の連合会が結成されてきた。

全国精神障害者家族会連合会（ぜんかれん）は昭和 40（1965）年に結成された。

・岐阜県精神障害者家族会連合会の設立

昭和 47（1972）年ごろから、5ヶ所の家族会による設立準備委員会が開催された。

昭和 49（1974）年 9 月 13 日に「岐阜県精神障害者家族連合会（県家連・ぎふかれん）」が結成された。結成大会は、岐阜県庁舎（旧）大会議室で、松永県議会議長、渡辺・杉本県会議員・行政担当者等の臨席を頂き、開催した。参加者：150名。

内容：設立経緯の説明、会則・初代会長（酒井田東一氏）・設立趣旨書などの決定。

・設立趣意書

- ① 医療費全額公費負担の完全実施
- ② 社会福祉医療体系と施設の実現
- ③ 最低生活保障の実現

・設立時の家族会 昭和 49（1974）年

病院家族会（5）：岐阜精神病家族会、慈恵中央病院家族会、須田病院家族会、美濃加茂家族会、伊自良村家族会

地域家族会（1）：岐阜市あけぼの会

・10周年 昭和 60（1985）年当時の家族会

「県家連」加入家族会（8）

- ・岐阜市あけぼの会・中濃地区家族会・恵那地区家族会・白川町やすらぎ会
- ・岐阜精神病院家族会・慈恵中央病院家族会・須田病院家族会・れんげ家族会

未加入家族会（8）

- ・美濃加茂病院家族会　・岐阜赤十字病院家族会　・可茂地区家族会　・上宝村ともしび会
- ・丹生川村地域家族会　・古川町地域家族会　・高根村地域家族会　・伊自良村家族会

（未加入の家族会の参加が大きな課題とされていた）

・設立 10 周年記念誌（「ぎふかれん誌」創刊号）の発行 昭和 60（1985）年

2) 岐阜県の家族会・作業所の設立（「ぎふかれん誌」等による）

昭和 39(1964)年 9月	「岐阜精神病院家族会」（岐阜病院）結成 会長：酒向岸
昭和 41(1966)年 7月	「慈恵中央病院家族会」設立総会 177名参加 病院と家族で活動
昭和 43(1968)年 11月	「須田病院家族会」（病院家族会）発足
昭和 46(1971)年 12月	「あけぼの会」（岐阜市地域家族会）発足 代表：岩田正一 出席者：85名
昭和 49(1974)年 9月3日	「岐阜県精神障害者家族会連合会」設立 出席者：150名
昭和 56(1981)年 10月11日	「れんげ家族会」第1回家族会 会長：松田令一 県家連に加入 (岐阜県精神衛生センターのデイケアの通所者の家族で結成)
昭和 58(1983)年 1月11日	「恵那地区精神障害者家族会・踏のとう」発足。発足時会員6名 会長：西村克己
昭和 58(1983)年 6月1日	「長良共同作業所」（精神障害者用）の開設 (福祉農業会館の精神衛生センターの隣接の一室で開設)
昭和 58(1983)年 3月3日	「中濃地区わかば家族会」創設 結成大会 14名参加 関保健所管内（関市、美濃市、5町村） 会員70名位 会長：平野豊一
昭和 58(1983)年 11月8日	「加茂地区家族会」結成大会 15名参加 会長：酒向岸 (中濃保健所管内の2市7町村によって設立)
昭和 59(1984)年 4月1日	「白川町やすらぎ会」を保健所の指導で結成。50名、会長：井戸太郎 (昭和57年 井戸太郎さんが「やすらぎ会」を作る)
昭和 60(1985)年8月	家族会「青葉の会」発足 高山市の家族会
昭和 60(1985)年	「下呂町しらさぎ会」発足。下呂町の家族会
昭和 61(1986)年 5月	家族会「東濃さつき会」発足。東濃西部3市1町 会員40名
昭和 60(1986)年 6月	「中津川ふきのとう」小規模作業所を恵那市に設置 「恵那地区ふきのとう家族会」が運営 所長：神沢恒夫 平成12(2000)年 NPO法人東濃やまなみ会 地域活動支援センター 「ふきのとう」として中津川市に移転)
昭和 63年(1989)年 3月	「西濃地域精神障害者家族会いぶき会」(家族会)が大垣保健所の協力で設立
平成元(1989)年	共同作業所「青葉の家」設置。家族会「青葉の会」が運営。 (平成22年に「青葉の家」と「空町作業所」が合併し、B型作業所「青空作業所」となる)
平成 2(1990)年 2月	ジョン・ポーマン牧師の協力を得て、「いぶき会」家族会が「いぶき共同作業所」を養老町に開設。 (平成10年、大垣市に移転し「NPO法人いぶき会・いぶき作業所」になる)
平成 2(1990)年 3月	「わかば共同作業所」を「中濃地区わかば家族会」が保健所の指導で創設。

平成 2(1990)年 4 月	「ひかりの家共同作業所」開所。所長：佐伯悟 美濃加茂市太田に設立。登録者：16 名、通所者：13 名程度
平成 3(1991)年	「各務原市たんぼぼの会」発足。各務原市
平成 3(1991)年 10 月	「東濃さつき会」が「ドリームプラザ」B型作業所を設立（瑞浪市）
平成 4(1992)年 4 月	「郡上つくし家族会」結成 会長：山下信幸
平成 6(1994)年 4 月	「益田しらさぎ会」発足 益田保健所管内の 5 町村の家族会
平成 6(1994)年 10 月	「コスモス」小規模作業所誕生、益田郡下呂町 社会福祉協会運営
平成 6(1994)年 6 月 6 日	「羽島コスモス会」家族会の発足 会長：川田進 羽島保健所管内に 会員 22 名
平成 7(1995)年 8 月	「いこい会」（家族会）の設立総会。会長：石井敏郎 （揖斐郡大野町の大野保健所の指導で平成 4 年 8 月から懇談会を始める） 大野保健所管内の家族（本巣郡 6 町 1 村、揖斐郡 3 町 5 村）
平成 10(1998)年 4 月	「ふれあいの家」作業所を恵那保健所と家族会が恵那市大井町に立ち上げる。 理事長：桂川求（平成 19 年法人化し、B 型作業所に）
平成 10(1998) 7 月 1 日	家族会・作業所「ハウス希望」設立 養老町 （養老町にあった「いぶき作業所」の移転により、跡地で発足）
平成 12(2000)年	「友和会」家族会の設立 飛騨市、青葉の会から独立
平成 14（2002）年	作業所「フレンドシップつくしの家」オープン 所長：西松省一
平成 15(2003)年 10 月	「かけはし西岐阜」小規模作業所設立 NPO 法人ぎふ脳外傷友の会長良川
平成 19(2007)年 1 月	「東濃さつき会」が「ピュアハート姫」B型作業所を設立（多治見市）
平成 20(2008)年 4 月	「憩いの家」飛騨市障がい者自立支援施設を「友和会」家族会が設立 社会福祉法人吉城福祉会が運営（平成 20 年会長：砂田滋）（平成 23 年 B 型 作業所）

3) 歴代会長・理事長名（不明な部分あり）

初代	昭和 49 年度～	酒井田 東一 会長	慈恵中央病院家族会
第 2 代	昭和 55 年～	日比野 隆盛 会長	
第 3 代	昭和 59 年～	酒向 岸 会長	岐阜精神病院家族会
第 4 代	平成元～6 年度	桑原 淑郎 会長	岐阜精神病院家族会
第 5 代	平成 7～10 年度	村田 忍 会長	東濃さつき会
第 6 代	平成 11～15 年度	川田 進 会長	コスモス会
第 7 代	平成 16～20 年度	今村 辰司 理事長	岐阜市あけぼの会
第 8 代	平成 21～23 年度	今 正一 理事長	岐阜市あけぼの会
第 9 代	平成 24～27 年度	中村 剛 理事長	岐阜市あけぼの会
第 10 代	平成 28～31 (令和元) 年度	山田 偉雄 理事長	中濃わかば会
第 11 代	令和 2 年度～	服部 信子 理事長	岐阜市あけぼの会

4) 役員名（敬称略）

昭和 60 年度（1985 年度）

役 職	所 属	氏 名
会長	岐阜精神病院家族会	酒向 岸
副会長	岐阜市あけぼの会	岩田 正一
副会長	岐阜精神病院家族会	桑原 淑郎
副会長	慈恵中央病院家族会	曾我 正司
副会長	須田病院家族会	堤 孝
副会長	中濃地区家族会	平野 豊一
副会長	れんげ家族会	松田 令一
副会長	白川町やすらぎ会	井戸 太郎
会計・書記	岐阜市あけぼの会	奥村 哲郎
会計監事	白川町やすらぎ会	藤井 密雲
理事	慈恵中央病院家族会	渡辺 静香
理事	岐阜市あけぼの会	辻岡 政子
理事	岐阜市あけぼの会	安田ひな子
理事	岐阜市あけぼの会	武藤 八重
顧問	関市議会議員	酒井田東一
相談役	岐阜県精神衛生センター長	赤座 叡

平成 2 年度（1990 年度）

顧問	可茂家族会	酒向 岸
会長	岐阜精神病院家族会	桑原 淑郎
理事	白川町やすらぎ会	井戸 太郎
理事	岐阜市あけぼの会	岩田 正一
理事	恵那ふきのとう家族会	神沢 恒夫
理事	白川町やすらぎ会	藤井 密雲
理事	中濃わかば会	武藤 定助
理事	慈恵中央病院	曾我 正司
理事	岐阜市あけぼの会	辻岡 政子
理事	下呂町しらさぎ会	畳 百合子
理事	れんげ会	松田 令一
理事	東濃さつき会	加藤 正明
理事	岐阜市あけぼの会	奥村 真篤
理事	岐阜病院	広瀬 章
理事	高山青葉の会	古瀬 末男

平成元年（1989 年度）

役 職	所 属	氏 名
顧問	岐阜精神病院家族会	酒向 岸
会長	岐阜精神病院家族会	桑原淑郎
理事	白川町やすらぎ会	井戸 太郎
理事	下呂町しらさぎ会	細江 こず
理事	下呂町しらさぎ会	畳 百合子
理事	岐阜病院	五島 隆実
理事	高山青葉の会	古瀬 末男
理事	東濃さつき会	加藤 正明
理事	恵那ふきのとう	神沢 恒夫
理事	岐阜病院	広瀬 章
理事	岐阜市あけぼの会	武藤 八重
理事		梅田 節子
理事	岐阜市あけぼの会	辻岡 政子

平成 3 年度（1991 年度）

理事	下呂町しらさぎ会	井戸 太郎
理事	可茂地区家族会	酒向 岸
理事	美濃加茂病院家族会	加藤 利昭
理事	東濃さつき会	水野 正義
理事	恵那ふきのとう家族会	神沢 恒夫
理事	武儀郡武儀町下之保	木村 金一
理事	中濃わかば会	武藤 定助
理事	郡上つくし会	大門 宏子
理事	あけぼの会	奥村 真篤
理事	関保健所	酒井 光哉
理事	岐阜精神病院家族会	桑原 淑郎
理事	岐阜病院	五島 隆実
理事	慈恵中央病院家族会	原 義典
理事	岐阜県精神保健センター	浅田 和男

理事	丹生川村家族会	堤 孝
理事	郡上つくし会	山下 信幸
理事	慈恵中央病院	渡辺 静香
理事		駒月 てい
理事	下呂町しらさぎ会	細江 こず

平成 4 年度 (1992 年度)

理事長	岐阜市あけぼの会	桑原 淑郎
副理事長	白川町やすらぎ会	井戸 太郎
副理事長	岐阜市あけぼの会	岩田 正一
副理事長	中津川ふきのとう家族会	神沢 恒夫
理事・監事	岐阜市あけぼの会	奥村 真篤
理事・書記	下呂町しらさぎ会	畳 百合子
理事・書記	(社) 岐阜病院家族会	広瀬 章
理事	中濃わかば会	武藤 定助
理事	慈恵中央病院家族会	曾我 正可
理事	岐阜市あけぼの会	辻岡 政子
理事	東濃さつき会	山本 信男
理事	高山青葉の会	中口 政枝
理事	丹生川村家族会	堤 孝
理事	郡上つくし会	山下 信幸
理事	下呂町しらさぎ会	細江 こず
理事	いぶき会	いぶき会長
理事	たんぼぼの会	今尾 信子
理事	中濃わかば会	木村 金一
顧問	可茂地区家族会	酒向 岸
相談役	岐阜県精神保健センター所長	赤座 叡

平成 9 年度 (1997 年度)

会長	東濃さつき会	村田 忍
副会長	ふきのとう家族会	神沢 恒夫
副会長	いこい会	石井 敏郎
副会長	あけぼの会	中島 勝彦
副会長	コスモス会	川田 進
副会長	青葉の会	光賀 浩子
	たんぼぼの会	足立 正治
	いぶき会	猪本 和子
	中濃わかば会	武藤 定助

平成 5 年度 (1993 年度)

会長	岐阜市あけぼの会	桑原 淑郎
理事	白川町やすらぎ会	井戸 太郎
理事	益田しらさぎ会	細江 敬逸
理事	中濃わかば会	武藤 定助
理事	岐阜市あけぼの会	奥村 真篤
理事	慈恵中央病院	原 義典
理事	(社) 岐阜病院家族会	広瀬 章
理事	可茂地区家族会	酒向 岸
理事	岐阜市あけぼの会	岩田 正一
理事	恵那ふきのとう家族会	神沢 恒夫
理事	東濃さつき会	村田 忍
理事	たんぼぼの会	足立 正治

平成 11 年度 (1999 年度)

会長	コスモス会	川田 進
副会長	ふきのとう家族会	神沢 恒夫
副会長	いこい会	石井 敏郎
副会長	白川町やすらぎ会	嶋崎 豊喜
	いぶき会	林 時彦
	中濃わかば会	成戸 徳市
	郡上つくし会	山越 敏
	可茂地区家族会	政野 武男
	益田しらさぎ会	細江 敬逸

	郡上つくし会	山越 敏
	可茂地区家族会	政野 武男
	白川町やすらぎ会	嶋崎 豊喜
	益田しらさぎ会	細江 敬逸
	丹生川地区家族会	砂田 義幸
	慈恵中央病院家族会	酒井田東一
	美濃加茂病院家族会	加藤 利昭
	あけぼの会	今村 辰司
	東濃さつき会	林 隆慶
会計監査	あけぼの会	奥村 真篤
会計監査	コスモス会	熊沢 瞳
事務局	精神保健福祉センター	日比野美智子
事務局	コスモス会	熊澤 瞳

平成 13 年度 (2001 年度)

会長	コスモス会	川田 進
副会長	ふきのとう家族会	神沢 恒夫
副会長	いこい会	石井 敏郎
副会長	白川町やすらぎ会	嶋崎 豊喜
理事	いぶき会	林 時彦
理事	中濃わかば会	長屋 薫
理事	郡上つくし会	山越 敏
理事	可茂地区家族会	政野 武男
理事	益田しらさぎ会	細江 敬逸
理事	青葉の会	光賀 浩子
理事	東濃さつき会	小倉 錠治
理事	岐阜市あけぼの会	今村 辰司
理事	岐阜市あけぼの会	岡田真寿美
理事	たんぼぼの会	長縄 京子
理事	丹生川地区家族会	砂田 義幸
理事	慈恵中央病院家族会	原 義典
理事	美濃加茂病院家族会	加藤 利昭
理事	友和会	砂田 滋
会計監査	コスモス会	林 幹彦
会計監査	いぶき会	林 時彦
事務局	コスモス会	熊沢 瞳
事務局	岐阜市あけぼの会	鈴木富喜枝

	青葉の会	光賀 浩子
	東濃さつき会	林 要
	あけぼの会	今村 辰司
	あけぼの会	安藤 正夫
	たんぼぼの会	今尾 信子
	丹生川地区家族会	砂田 義幸
	慈恵中央病院家族会	酒井田東一
	美濃加茂病院家族会	加藤 利昭
会計監査	コスモス会	林 幹彦
会計監査	あけぼの会	井上 一郎
事務局	コスモス会	熊沢 瞳

平成 16 年度 (2004 年度)

会長	コスモス会	川田 進
副会長	いぶき会	林 時彦
副会長	ふきのとう家族会	神沢 恒夫
理事	白川町やすらぎ会	熊崎 森男
理事	中濃わかば会	長屋 薫
理事	郡上つくし会	牧野 正義
理事	可茂地区家族会	金子 保則
理事	益田しらさぎ会	細江 敬逸
理事	青葉の会	大下 恵子
理事	東濃さつき会	宮下 俊夫
理事	岐阜市あけぼの会	今村 辰司
理事	岐阜市あけぼの会	岡田 真寿美
理事	たんぼぼの会	今尾 信子
理事	丹生川地区家族会	砂田 義幸
理事	慈恵中央病院家族会	今尾 奈美江
理事	のぞみの丘ホスピタル家族会	加藤 利昭
理事	のぞみの丘ホスピタル家族会	佐々木 廉之
理事	友和会	砂田 滋
理事	ふれあいの家家族会	桂川 求
理事	コスモス会	林 幹彦
事務局		高野 芳一
事務局		広瀬 昌美

平成 17 年度（2005 年度）

会長	岐阜市あけぼの会	今村 辰司
副会長	東濃さつき会	宮下 俊夫
副会長	青葉の会	大下 恵子
副会長	郡上つくし会	牧野 正義
理事	東濃東部家族会	神沢 恒夫
理事	コスモス会	川田 進
	いぶき会	早崎 淳二
	白川町やすらぎ会	熊崎 森男
	中濃わかば会	長屋 薫
	可茂地区家族会	金子 保則
	下呂町しらさぎ会	細江 敬逸
	岐阜市あけぼの会	岡田真寿美
	丹生川地区家族会	砂田 義幸
	慈恵中央病院家族会	今尾奈美江
	のぞみの丘ホスピタル家族会	加藤 利昭
	友和会	砂田 滋
	たんぼぼの会	熊沢 瞳
	たんぼぼの会	小島 福美
	ハウス希望家族会	久保田正司
	いこい会	安藤 勝子
	心牧園	深山 孝子
会計監査	青葉の会	光賀 浩子
会計監査	たんぼぼの会	今尾 信子
事務局		太田 香織

平成 19 年度（2007 年度）

会長	岐阜市あけぼの会	今村 辰司
副会長	東濃さつき会	宮下 俊夫
副会長	青葉の会	大下 恵子
副会長	郡上つくし会	牧野 正義
副会長	ハウス希望	久保田正司
副会長	岐阜市あけぼの会	後藤 一郎
	コスモス会	川田 進
	白川町やすらぎ会	熊崎 森男
	中濃わかば会	山田 偉雄
	可茂地区家族会	金子 保則

平成 18 年度（2006 年度）

会長	岐阜市あけぼの会	今村 辰司
副会長	東濃さつき会	宮下 俊夫
副会長	青葉の会	大下 恵子
副会長	郡上つくし会	牧野 正義
理事	いぶき会	北嶋 和子
理事	コスモス会	川田 進
	東濃東部家族会	神沢 恒夫
	白川町やすらぎ会	熊崎 森男
	中濃わかば会	山田 偉雄
	可茂地区家族会	金子 保則
	下呂町しらさぎ会	星屋よし彥
	岐阜市あけぼの会	梅田 道子
	丹生川地区家族会	砂田 義幸
	慈恵中央病院家族会	今尾奈美江
	のぞみの丘ホスピタル家族会	加藤 利昭
	友和会	砂田 滋
	たんぼぼの会	小島 福美
	ハウス希望	久保田正司
	いこい会	安藤 勝子
	心牧園	深山 孝子
相談役	たんぼぼの会	熊沢 瞳
会計監査	青葉の会	光賀 浩子
会計監査	たんぼぼの会	今尾 信子

平成 20 年度（2008 年度）

会長	岐阜市あけぼの会	今村 辰司
副会長	東濃さつき会	宮下 俊夫
副会長	青葉の会	大下 恵子
副会長	郡上つくし会	牧野 正義
副会長	ハウス希望家族会	久保田 正司
副会長	岐阜市あけぼの会	今 昭一
	コスモス会	川田 進
	白川町やすらぎ会	熊崎 森男
	中濃わかば会	山田 偉雄
	可茂地区家族会	金子 保則

	下呂町しらさぎ会	星谷よし系
	東濃やまなみ会	石樽 康彦
	丹生川地区家族会	砂田 義幸
	慈恵中央病院家族会	今尾奈美江
	のぞみの丘ホスピタル家族会	加藤 利昭
	友和会	砂田 滋
	たんぼぼの会	小島 福美
	いぶき会	林 時彦
	いこい会	安藤 勝子
	心牧園	青木 三芳
	東濃東部家族会	桂川 求
	かけはし西岐阜	坂口 充啓
会計監査	岐阜市あけぼの会	今 昭一
会計監査	ハウス希望	石井 真広
相談役	たんぼぼの会	熊澤 瞳
事務局		安藤富貴子

	下呂町しらさぎ会	星谷 よし系
	東濃やまなみ会	石樽 康彦
	丹生川地区家族会	砂田 義幸
	慈恵中央病院家族会	今尾 奈美江
	のぞみの丘ホスピタル家族会	加藤 利昭
	友和会	砂田 滋
	たんぼぼの会	篠田 宣子
	いぶき会	林 時彦
	いこい会	安藤 勝子
	心牧園	深山 孝子
	かけはし西岐阜	西村 憲一
会計監査	岐阜市あけぼの会	田中 利正
会計監査	ハウス希望家族会	石井 眞弘
相談役	たんぼぼの会	熊崎 瞳
事務局		安藤 富貴子

平成 21 年度 (2009 年度)

会長	岐阜市あけぼの会	今 昭一
副会長	東濃さつき会	宮下 俊夫
副会長	青葉の会	大下 恵子
副会長	郡上つくし会	牧野 正義
副会長	ハウス希望家族会	久保田正司
	コスモス会	川田 進
	白川町やすらぎ会	熊崎 森男
	中濃わかば会	山田 偉雄
	可茂地区家族会	金子 保則
	下呂しらさぎ会	星谷よし系
	東濃やまなみ会	石樽 康彦
	丹生川地区家族会	砂田 義幸
	慈恵中央病院家族会	今尾奈美江
	のぞみの丘ホスピタル家族会	加藤 利昭
	友和会	清水 章一
	たんぼぼの会	大江 純子
	いぶき会	林 時彦
	いこい会	安藤 勝子

平成 22 年度 (2010 年度)

理事長	岐阜市あけぼの会	今 昭一
副理事長	ハウス希望	久保田 正司
副理事長	東濃さつき会	宮下 俊夫
副理事長	郡上つくし会	牧野 正義
副理事長	青葉の会	大下 恵子
理事	コスモス会	川田 進
理事	白川町やすらぎ会	熊崎 森男
理事	中濃わかば会	山田 偉雄
理事	可茂地区家族会	金子 保則
理事	下呂しらさぎ会	星谷 よし系
理事	東濃やまなみ会	柘植 昭和
理事	慈恵中央病院家族会	今尾 奈美江
理事	友和会	清水 章一
理事	たんぼぼの会	大江 純子
理事	いぶき会	林 時彦
理事	いこい会	吉村 とみ
理事	心牧園・ココペリ	杉田 啓二
理事	かけはし西岐阜	西村 憲一

	心牧園・ココペリ	川口 和子
	かけはし西岐阜	西村 憲一
会計監査	岐阜市あけぼの会	田中 利正
会計監査	ハウス希望家族会	石井 眞弘
事務局		安藤富貴子

監事	岐阜市あけぼの会	田中 利正
監事	ハウス希望	石井 眞弘
事務局	岐阜市あけぼの会	安藤 富貴子

平成 23 年度 (2011 年度)

理事長	岐阜市あけぼの会	今 昭一
副理事長	ハウス希望家族会	久保田正司
副理事長	東濃さつき会	江崎 道春
副理事長	郡上つくし会	牧野 正義
副理事長	青葉の会	大下 恵子
理事	コスモス会	川田 進
理事	白川町やすらぎ会	熊崎 森男
理事	中濃わかば会	山田 偉雄
理事	可茂地区家族会	宮崎 智
理事	下呂しらさぎ会	星谷よしゑ
理事	東濃やまなみ会	柘植 昭和
理事	友和会	清水 章一
理事	たんぼぼの会	井上 俊子
理事	いぶき会	北嶋 和子
理事	いこい会	吉村 とみ
理事	心牧園・ココペリ	杉田 啓二
理事	かけはし西岐阜	西村 憲一
監事	岐阜市あけぼの会	田中 利正
監事	ハウス希望家族会	石井 眞弘
事務局	岐阜市あけぼの会	安藤富貴子

平成 24 年度 (2012 年度)

理事長	岐阜市あけぼの会	中村 剛
副理事長	ハウス希望家族会	久保田 正司
副理事長	東濃やまなみ会	柘植 昭和
副理事長	郡上つくし会	牧野 正義
副理事長	青葉の会	大下 恵子
理事	コスモス会	川田 進
理事	白川町やすらぎ会	熊崎 森男
理事	中濃わかば会	山田 偉雄
理事	可茂地区家族会	宮崎 智
理事	下呂しらさぎ会	星谷 よしゑ
理事	たんぼぼの会	井上 俊子
理事	いぶき会	北嶋 和子
理事	いこい会	吉村 とみ
理事	かけはし西岐阜	西村 憲一
理事	東濃さつき会	江崎 道春
監事	岐阜市あけぼの会	田中 利正
監事	ハウス希望家族会	石井 眞弘
事務局		石山 博子

平成 25 年度 (2013 年度)

理事長	岐阜市あけぼの会	中村 剛
副理事長	ハウス希望家族会	久保田正司
副理事長	中濃わかば会	山田 偉雄
副理事長	東濃やまなみ会	柘植 昭和
副理事長	青葉の会	大下 恵子
理事	かけはし西岐阜	西村 憲一
理事	コスモス会	川田 進

平成 26 年度 (2014 年度)

理事長	岐阜市あけぼの会	中村 剛
副理事長	いぶき会	北嶋 和子
副理事長	中濃わかば会	山田 偉雄
副理事長	東濃やまなみ会	柘植 昭和
副理事長	青葉の会	大下 恵子
理事	かけはし西岐阜	西村 憲一
理事	コスモス会	川田 進

理事	たんぼぼの会	井上 俊子
理事	いぶき会	北嶋 和子
理事	いこい会	吉村 とみ
理事	可茂地区家族会	宮崎 智
理事	白川町やすらぎ会	安田千鶴子
理事	郡上つくしの会	青木 吉男
理事	東濃さつき会	江崎 道春
理事	下呂しらさぎ会	星谷よし系
監事	岐阜市あけぼの会	田中 利正
監事	ハウス希望家族会	石井 眞弘
事務局		石山 博子

理事	たんぼぼの会	井上 俊子
理事	ハウス希望家族会	久保田 正司
理事	いこい会	吉村 とみ
理事	白川町やすらぎ会	安田 千鶴子
理事	郡上つくしの会	青木 吉男
理事	東濃さつき会	江崎 道春
監事	岐阜市あけぼの会	高見 正春
監事	いぶき会	矢野 隆之
事務局		石山 博子

平成 27 年度 (2015 年度)

理事長	岐阜市あけぼの会	中村 剛
副理事長	いぶき会	北嶋 和子
副理事長	中濃わかば会	山田 偉雄
副理事長	東濃やまなみ会	柘植 昭和
副理事長	青葉の会	大下 恵子
理事	かけはし西岐阜	西村 憲一 (代)久保敏雄
理事	コスモス会	川田 進
理事	たんぼぼの会	井上 俊子
理事	ハウス希望家族会	久保田正司
理事	いこい会	吉村 とみ
理事	白川町やすらぎ会	安田千鶴子
理事	郡上つくしの会	青木 吉男
理事	東濃さつき会	江崎 道春
監事	岐阜市あけぼの会	高見 正春
監事	いぶき会	矢野 隆之
事務局		石山 博子

平成 29 年度 (2017 年度)

理事長	中濃わかば会	山田 偉雄
副理事長	岐阜市あけぼの会	服部 信子
副理事長	ハウス希望家族会	久保田正司
副理事長	東濃やまなみ会	柘植 昭和
副理事長	青葉の会	大下 恵子

平成 28 年度 (2016 年度)

理事長	中濃わかば会	山田 偉雄
副理事長	ハウス希望家族会	久保田 正司
副理事長	岐阜市あけぼの会	服部 信子
副理事長	東濃やまなみ会	柘植 昭和
副理事長	青葉の会	大下 恵子
理事	かけはし西岐阜	西村 憲一 (代)久保 敏雄
理事	コスモス会	川田 進
理事	たんぼぼの会	井上 俊子
理事	いぶき会	野々 時雄
理事	いこい会	吉村 とみ
理事	白川町やすらぎ会	安田 千鶴子
理事	郡上つくしの会	青木 吉男
理事	東濃さつき会	江崎 道春
監事	岐阜市あけぼの会	高見 正春
監事	いぶき会	矢野 隆之
事務局	ハウス希望	前田 幸恵

平成 30 年度 (2018 年度)

理事長	中濃わかば会	山田 偉雄
副理事長	岐阜市あけぼの会	服部 信子
副理事長	ハウス希望家族会	久保田 正司
副理事長	東濃やまなみ会	柘植 昭和
副理事長	青葉の会	大下 恵子

理事	岐阜市あけぼの会	山内久美子
理事	岐阜市あけぼの会	石田 吉保
理事	かけはし西岐阜	西村 憲一 (代)久保敏雄
理事	いぶき会	野々 時雄
理事	コスモス会	川田 進
理事	たんぼぼの会	井上 俊子
理事	いこい会	吉村 とみ
理事	白川町やすらぎ会	安田千鶴子
理事	郡上つくしの会	青木 吉男
理事	東濃さつき会	江崎 道春
監事	岐阜市あけぼの会	高見 正春
監事	いぶき会	矢野 隆之
相談役	岐阜市あけぼの会	中村 剛
事務局	ハウス希望	前田 幸恵

平成 31 年度 (2019 年度)

理事長	中濃わかば会	山田 偉雄
副理事長	岐阜市あけぼの会	服部 信子
副理事長	いぶき会	野々 時雄
副理事長	東濃やまなみ会	柘植 昭和
副理事長	青葉の会	大下 恵子
理事	岐阜市あけぼの会	石田 吉保
理事	岐阜市あけぼの会	児玉 進
理事	かけはし西岐阜	西村 憲一 (代)久保敏雄
理事	たんぼぼの会	井上 俊子
理事	ハウス希望家族会	久保田正司
理事	いこい会	吉村 とみ
理事	郡上つくしの会	谷口 昇三 (代)斎藤武生
理事	白川町やすらぎ会	安田千鶴子
理事	東濃さつき会	江崎 道春
監事	岐阜市あけぼの会	高見 正春
監事	いぶき会	矢野 隆之
顧問	岐阜市あけぼの会	中村 剛
事務局	岐阜市あけぼの会	筒井有紀子

理事	岐阜市あけぼの会	石田 吉保
理事	岐阜市あけぼの会	児玉 進
理事	かけはし西岐阜	西村 憲一 (代)久保 敏雄
理事	たんぼぼの会	井上 俊子
理事	いぶき会	野々 時雄
理事	いこい会	吉村 とみ
理事	郡上つくしの会	谷口 昇三
理事	白川町やすらぎ会	安田 千鶴子
理事	東濃さつき会	江崎 道春
監事	岐阜市あけぼの会	高見 正春
監事	いぶき会	矢野 隆之
事務局	岐阜市あけぼの会	筒井 有紀子

令和 2 年度 (2020 年度)

理事長	岐阜市あけぼの会	服部 信子
副理事長	いぶき会	野々 時雄
副理事長	かけはし西岐阜	久保 敏雄
副理事長	中濃わかば会	田中 利正
副理事長	青葉の会	大下 恵子
副理事長	東濃さつき会	江崎 道春
理事	岐阜市あけぼの会	石田 吉保
理事	岐阜市あけぼの会	熊谷 久子
理事	岐阜市あけぼの会	児玉 進
理事	たんぼぼの会	井上 俊子
理事	ハウス希望家族会	久保田 正司
理事	いこい会	安藤 勝子
理事	郡上つくしの会	臼田 浄圓 (代)斎藤武生
理事	東濃やまなみ会	柘植 昭和
監事	岐阜市あけぼの会	高見 正春
監事	中濃わかば会	川島 愉美
顧問	岐阜市あけぼの会	中村 剛
顧問	中濃わかば会	山田 偉雄
事務局	岐阜市あけぼの会	筒井 有紀子

5) 受賞者一覧

表彰	受賞年月日	受賞者	所属
厚生大臣表彰	昭和62(1987)年11月	岩田 正一	あけぼの会会長・県家連会長
	平成14(2002)年11月	川田 進	県家連会長・コスモス会会長
日本顕彰会 (社会貢献表彰)	平成10(1998)年度	岩田 正一	岐阜市あけぼの会
知事表彰	昭和60(1985)年11月	県家連	
	昭和60(1985)年11月	岩田 正一	県家連理事・あけぼの会
	平成4(1992)年11月	県家連	
	平成10(1998)年12月	県家連	
	平成10(1998)年12月	井戸 太郎	加茂郡白川町黒川(白川やすらぎ会)
	平成14(2002)年12月	山越 敏	県家連理事・つくし会会長
	平成15(2003)年	大垣いぶき会	地域家族会
	平成15(2003)年	加藤 利昭	のぞみの丘ホスピタル
全家連理事長(会長) 表彰	昭和61(1986)年10月	岩田 正一	県家連理事・あけぼの会
	昭和61(1986)年10月	酒向 岸	県家連会長
	平成元(1989)年11月	辻岡 政子	県家連理事
	平成3(1991)年10月	桑原 淑郎	県家連理事
	平成4(1992)年11月	県家連	
	平成4(1992)年11月	井戸 太郎	県家連副会長
	平成5(1993)年10月	神澤 恒夫	県家連副会長
	平成9(1997)年11月	白川町やすらぎの会	地域家族会
	平成10(1998)年11月	中津川ふきのとう作業所	
	平成12(2000)年11月	青葉の会	地域家族会
	平成14(2002)年11月	石井 敏郎	県家連副会長・理事・いこい会会長
平成18(2006)年11月	熊沢 瞳	県家連理事・事務局・たんぼぼの会	
精神保健福祉協会会長賞 (旧 精神保健協会)	昭和58(1983)年11月	岩田 正一	県家連理事・あけぼの会会長
	昭和59(1984)年11月	酒向 岸	県家連会長
	昭和62(1987)年10月	辻岡 政子	県家連理事
	平成14(2002)年12月	加藤 利昭	県家連理事
	平成14(2002)年12月	石井 敏郎	県家連副会長・理事・いこい会会長
	平成14(2002)年12月	佐藤 勝郎	県家連理事・可茂地区家族会会長

精神保健福祉協会会長賞 (旧 精神保健協会)	平成 14(2002)年 12月	服部 千鶴子	可茂地区家族会役員
	平成 14(2002)年 12月	大門 宏子	郡上つくし会役員
	平成 15(2003)年 11月	青葉の会	地域家族会
	平成 15(2003)年 11月	日曜会	岐阜市当事者グループ
	平成 15(2003)年 11月	細江 敬逸	下呂しらさぎ会
	令和 2(2020)年 11月	今村 辰司	岐阜市あけぼの会
	令和 2(2020)年 11月	郡上つくし会	地域家族会
日本善行会	令和 2(2020)年 11月	今村 辰司	岐阜市あけぼの会
岐阜県精神障害者 家族会連合会会長表彰	平成 8(1996)年 9月 10日 (第 21 回県大会で)	個人：8 名 家族会：5 家 族会	いぶき会、加茂地区家族会 白川町やすらぎ会 中濃わかば会、恵那ふきのとう

6)「ぎふかれん」の経過

・設立

県精神障害者家族会 昭和 49 (1974) 年 9 月 13 日

・NPO 法人化

特定非営利活動法人 岐阜県精神障害者家族会連合会 平成 12 (2000) 年 7 月 21 日登録

・名称変更 (法務局登録)

特定非営利活動法人 岐阜県精神保健福祉会連合会に変更 平成 20 (2008) 年 7 月 28 日

・現体制

総会：1 回/年 役員任期：2 年 (4 月 27 日又は 5 月に開催) 正会員 (家族会代表) 11 名

(現在、「ぎふかれん」には、岐阜県下、11 の家族会が加盟している)

理事会：3 回/年ぐらい

理事 (各家族会代表 11 名、岐阜市あけぼの会 3 名) 平成 28 年から 14 名

幹事会：2 回/年ぐらい (副理事長、5 圏域から各 1 名選出)

ミニ幹事会 (月曜会)：1 回/2 週間 (事務所近郊の副理事長等で開催)

「みんなねっと」会議、「甲州・東海ブロック」会議等に参加

「甲州・東海ブロック大会」は、5 年に 1 回、岐阜県が担当

「みんなねっと」全国大会・「甲州・東海ブロック大会」に参加

岐阜県の障がい者関連の会議等に出席

- ・岐阜県精神保健福祉審議会
- ・岐阜県障害者施策推進協議会
- ・岐阜県障がい者総合支援懇話会
- ・岐阜県福祉のまちづくり推進会議
- ・岐阜県障がい者芸術文化支援センター協力委員会

- ・岐阜県障がい者差別解消調整委員会
- ・ねんりんピック岐阜 2020 実行委員会

一般社団法人 岐阜県障害者スポーツ協会の会議に出席

岐阜県精神保健福祉協会の会議に出席

岐阜県障害者社会推進協議会の出席

・会員数の推移（会費納入会員）

和 暦（西 暦）	会員数	特記事項
昭和 60 年(1985)	1200 余名	病院家族会と地域家族会（9 家族会） （1200 名は、会費納入会員か確認できない）
平成 10 年（1998）	714 名	20 家族会
平成 11 年（1999）	704 名	18 家族会
平成 13 年（2001）		22 家族会
平成 18 年（2006）	811 名	21 家族会
平成 19 年（2007）		22 家族会 ・かけはし西岐阜 入会
平成 20 年（2008）	495 名	19 家族会 ・丹生川地区家族会・須田病院家族会 ・ふれあいの家家族会、退会
平成 21 年（2009）	488 名	19 家族会
平成 22 年（2010）	481 名	18 家族会 ・慈恵中央病院家族会 退会
平成 23 年（2011）	432 名	17 家族会
平成 24 年（2012）	401 名	15 家族会 ・心牧園ココペリ・友和会 退会
平成 25 年（2013）	396 名	15 家族会
平成 26 年（2014）	340 名	13 家族会 ・加茂地区家族会・下呂しらさぎ会 退会
平成 27 年（2015）	331 名	13 家族会
平成 28 年（2016）	331 名	12 家族会 ・コスモス家族会 退会
平成 29 年（2017）	301 名	12 家族会
平成 30 年（2018）	290 名	12 家族会
平成 31 年（2019）	289 名	12 家族会
令和 2 年（2020）	283 名	11 家族会 ・白川やすらぎ会 退会

平成 19 年度（2007 年）は 22 家族会 [現 11 家族会、心牧園ココペリ、加茂地区家族会、白川やすらぎ会

友和会、下呂しらさぎ会、慈恵中央病院家族会、のぞみの丘ホスピタル家族会、コスモス会
丹生川地区家族会、須田病院家族会、ふれあいの家家族会（恵那市）]

令和 2 年度(2020 年)は、現 11 家族会（岐阜市あけぼの会、かけはし西岐阜、たんぼぼの会、いこい会、いぶき会、ハウス希望、中濃わかば会、郡上つくし会、東濃さつき会、東濃やまなみ会、青葉の会）

Ⅱ：「ぎふかれん」の活動

1) 岐阜県精神障害者家族大会（県大会）の開催

平成 20 年（2008）に、家族会名称変更により**岐阜県精神保健福祉会**と改称

昭和 49 年（1974）の岐阜県精神障害者家族会結成大会を第 1 回大会として開催された。

第 2 回大会は、昭和 51 年（1976）、総会後の講演会として実施された。

ほぼ毎年、医師・医療行政関係者・精神保健福祉士・家族会など、県内外から講師を招き、「地域精神医療の実際」「家族の心かまえ」「偏見打破」「先進県の家族会活動」「自立への援助」などをテーマに「講演会」「シンポジウム」「障害者の発表会」などが行われた。

平成初期までは総会を兼ね岐阜市開催が多かったが、その後、各圏域（5 圏域）持ち回りでの開催となり、講演会が主体となった。

県大会の運営費は、開催圏域の市町村からの助成金・分担金、県からの助成金、岐阜新聞社社会事業団からの寄付金等で賄われた。担当圏域の地域家族会が中心となり開催した。

開催圏域の家族会の負担が大きく、2019 年度は中止、2020 年度は午後からの大会を計画したが新型コロナウイルス拡大の為、延期となった。

回	開催日	会場	内 容	参加人数
第 1 回	昭和 49 年(1974) 9 月 13 日	岐 阜 県 庁 舎 (旧) の大会 議室	岐阜県精神障害者家族会結成大会	150 名
第 2 回	昭和 51 年(1976) 3 月 7 日	岐阜県医師会 館ホール	昭和 50 年度総会「地域精神医療の実際」 講師：西本多美江（群馬県の保健婦）	185 名
第 3 回	昭和 51 年(1976) 9 月 22 日	岐阜市養心会 館	昭和 51 年度総会・研修会 「入院患者に対する家族の処理」 講師：宇野隆盛（岐阜精神病院） 「外来患者をもつ家族の心がまえ」 講師：星 融（岐阜市民病院）	130 名
第 4 回	昭和 53 年(1978) 7 月 7 日	関市刃物会館	中濃地区懇談会・シンポジウム 「精神障害者をもって家族が偏見を打ち破 ってすすむ為に…」 懇談会「県家連の今後の在り方について」	
第 5 回	昭和 54 年(1979) 10 月	岐阜県庁舎 大会議室	岐阜地区懇談会・シンポジウム 「精神障害者をもって家族が偏見を打ち破 ってすすむ為に…」 懇談会「県家連に望むこと」	
第 6 回	昭和 55 年(1980) 5 月 21 日	岐阜市町村会 館	昭和 55 年度総会・研修会 「岐阜県における精神衛生活動の現状と今	

		大会議室	後の展望」 講師：赤座 叡（岐阜県精神衛生センター所長）	
第7回	昭和57年(1982) 3月10日	岐阜市町村会館	昭和56年総会・研修会 「静岡県の家族会活動について」 青野敏夫（静家連会長） 「社会復帰と職親について」 講師：井出利彦（静岡県職親連会長）	
第8回	昭和57年(1982) 10月21日	岐阜市町村会館	昭和57年総会・研修会「自立への援助」 講師：赤座 叡（岐阜県精神衛生センター所長） 「精神障害者の社会復帰について」 講師：天野 薫（岐阜精神病院PSW）	
第9回	昭和58年(1983) 9月27日	高山市文化会館	昭和58年総会・研修会 「精神障害者と家族～今家族・患者・関係者は何をなすべきか～」 講師：滝澤武久（全家連事務局長）	
第10回	昭和59年(1984) 9月5日	白川町農協会館	昭和59年総会・研修会 「三重県における家族会活動」 講師：中村 寛（三重県家族会会長）	
第11回	昭和60年(1985) 7月25日	岐阜市文化センター	昭和60年度総会・研修会 （県家連10周年）	
第12回	昭和61年(1986)		不明	
第13回	昭和62年(1987) 10月20日	岐阜市南部 コミュニティセンター	「精神障害者の生活をどう守るか」 講師：田上和夫（国立精神研究所）	
第14回	昭和63年(1988) 10月6日	中津川市民文化会館	講演：「家族の接し方」 講師：小山内実（名古屋精神保健センター所長）	
第15回	平成2年(1990) 3月7日	岐阜市文化センター	「あたりまえの生活を求めて」 講師：中谷輝雄（やどかりの里理事長）	
第16回	平成3年(1991) 7月5日	関市文化会館	「21世紀に向けて、障害者たちに明日はあるか！」体験発表	
第17回	平成4年(1992) 9月13日	岐阜市南部 コミュニティセンター	「病気の理解と家族の役割」 講師：増野 肇（日本女子大）	130名
第18回	平成5年(1993) 8月29日	美濃加茂中央 公民館	「くすりの話」 講師：児玉佳也（美濃加茂病院医師） 「こころの病と回復」：経験者が語る	190名
第19回	平成6年(1994) 9月4日	多治見市文化会館	「社会復帰に向けての家族の役割」 講師：江口和夫（大学病院院長）	150名

第20回	平成7年(1995) 7月11日	高山市市民文化センター	「精神障がい者を持つ妹と暮らした体験談」 講師：堤 孝（丹生川地区家族会前会長） シンポジウム「家族の役割を考える」	230名
第21回	平成8年(1996) 9月10日	岐阜市南部 コミュニティセンター	「親ばなれ、子ばなれの準備」 講師：池末美穂子（全家連相談室）	200名
第22回	平成9年(1997) 7月11日	郡上八幡町 防災センター	「いま、家族ができること」 講師：石上文子（京都市朱雀工房施設長）	200名
第23回	平成10年(1998) 7月10日	羽島市民会館	「皆で語ろう」「安心して老いる」 講師：中井和代（全家連相談員）	187名
第24回	平成11年(1999) 10月22日	白川町町民会館	「精神保健福祉をめぐる動き」 講師：池末美穂子（日本福祉大学教授） 「私達の足跡―地域と共に―」 講師：菅原進・和子ご夫妻（やどかりの里）	394名
第25回	平成12年(2000) 7月7日	大垣サイトピアセンター	「あたりまえの生活を求めて ～家族活動を通して～」 講師：古谷治男（全家連理事長）	
第26回	平成13年(2001) 7月6日	下呂市観光会館	「相談を通して思うこと」 ～心豊かな温かい社会を目指して～ 講師：良田かおり（全家連相談員）	
第27回	平成14年(2002) 7月5日	関文化会館	「地域とともに生きるために」 ～家族会そして地域はどう 変わらなければならないか～ 講師：吉川武彦（中部学院大学教授）	400名
第28回	平成16年(2004) 9月30日	岐阜市未来会館	「精神障害者福祉の前進のために～介護保険との統合問題のポイントを知る～」 講師：池末美穂子（日本福祉大学教授）	337名
第29回	平成17年(2005) 9月30日	中津川市東濃 ふれあいセンター	「こころの病を脳の仕組みから考える」 講師：松下 院長 （東京都精神医学総合研究所・松沢病院）	400名
第30回	平成18年(2006) 9月22日	大垣市情報工房	「地域で働きたいのです。～見えない障害を理解してほしい～」 講師：舘 暁夫（帝京大学院大学）	420名
第31回	平成19年(2007) 9月20日	飛騨・世界生活文化センター	「あなたの力が家族を変える」 講師：高森和子（心の相談カウンセラー・SSリーダー） シンポジウム	432名

第 32 回	平成 21 年(2009) 9 月 30 日	美濃加茂市文化会館	「障がい者と家族が家庭：地域で安心して暮らすには」 講師：臼井潤一郎（地域生活支援センターひびき施設長）	343 名
第 33 回	平成 22 年(2010) 10 月 30 日	各務原市産業文化センター	「岐阜にアクトを」包括地域生活プログラム～訪問医療・訪問福祉で当事者・家族支援を～ 講師：伊藤順一郎(国立病院 精神科-社会復帰相談部長)、パネルディスカッション	258 名
第 34 回	平成 23 年(2011) 10 月 1 日	多治見市文化会館	「家族が元気になるために」～自分らしさを取り戻してみませんか～ 講師：土屋 徹(元国立精神・神経センター)	347 名
第 35 回	平成 24 年(2012) 11 月 3 日	大垣情報工房	「障がい者の自立生活を実現させる為に」生活者として支える「巣立ちの会」の活動 講師：田尾有樹子（社会福祉法人巣立ち会理事）	237 名
	平成 25 年(2013) 11 月 13・14 日	大垣市スイトピアセンター	平成 25 年度甲州・東海ブロック家族会西濃大会と兼ねる	
第 36 回	平成 26 年(2014) 11 月 1 日	こくふ交流センター (高山市)	基調講演 「地域の中で自分らしく生きていく」 講師：臼井潤一郎（地域生活支援センターひびき施設長） シンポジウム：体験発表	295 名
第 37 回	平成 27 年(2015) 10 月 7 日	関市わかくさプラザ	「家族・当事者・精神科医の 3 つの立場を体験して思うこと～人が回復するのに締め切りはありません～」 講師：夏苺郁子 シンポジウム：「まずは一歩！やりたいようにやってみよう」	259 名
第 38 回	平成 28 年(2016) 11 月 8 日	岐阜市ぎふ清流プラザ	「イギリスから学ぶ家族会支援」 講師：大野美子（愛知県健康福祉部こころの健康推進室主任） シンポジウム：「精神障害者が地域で自分らしく暮らすには」	300 名
第 39 回	平成 29 年(2017) 10 月 13 日	中津川市東美濃ふれあいセンター	「未来の為に今できること～私たちがやらなければならないこと～」 講師：井川 真（聖十字病院副院長） パネルディスカッション：「親亡き後に向けて」～当事者・家族にできること～	240 名

第40回	平成30年(2018) 11月9・10日	高山市民会館	平成30年度甲州・東海ブロック家族会を兼ねる	390名
中止	平成31年(2019)			
第41回	令和3年(2021) 3月	岐阜市	新型コロナウイルス感染拡大の為延期 (午後からの県大会を計画)	

大会の多くは、シンポジウムや当事者の発表もあったが、講演を主に記載した。

2) 甲州・東海ブロック大会、みんなねっと全国大会

◎甲州・東海ブロック精神保健福祉研修会

山梨県・岐阜県・愛知県・静岡県・三重県の5県輪番制で開催されてきた。

全国では、昭和58年(1983)より、全国8つのブロックに分け、研修会が行われた。

開催日	年度	会場	内 容	参加人数
平成2年(1990) 3月8・9日	平成元年度 大会	岐阜市文化 会館	「ともに生きる、ともに進むために」 講師：星 融 (関保健所)	
平成4年(1992) 1月30日～ 2月1日	平成3年度	三重県湯ノ 山	家族相談技術：原田氏 (三重県心の相談 センター所長) グループワーク：増野氏 (東京女 子大教授) 共同作業所の役割について： 坂田氏 (共同作業所全国連絡協議会副委 員長) 福祉制度：市川氏 (日永病院 psu) 相続をめぐる諸問題：稲子氏 (日本福祉 大教授)	
平成5年(1993) 1月27～29日	平成4年度	山梨県石和 町	「現代の精神障害者対策と将来に向け ての展望」 講師：板山賢次 (甲州・東海ブ ック家族 会精神保健作業所研究会)	
平成6年(1994) 2月8～10日	平成5年度甲 州・東海ブ ック 家族会研修会 in 岐阜	岐阜長良川 温泉せいら ん	「家族の組織強化」 「作業所の円滑な運営のために」 「病気の治療と社会復帰」 講師：浦島誠司 (岐阜県精神) 病院協会長)	190名
平成7年(1995) 2月8～10日	平成6年度	静岡県	「森田療法の実際—治療と家族の支え について」	
平成9年(1997) 10月7～9日	平成9年度	山梨県国民 年金保養セ ンター	「精神障害者の治療と社会復帰」 講師：功刀弘 (山梨県精神科医会長)	
平成11年(1999) 3月10	平成10年度 (岐阜大会)	岐阜市 観光ホテル	テーマ：希望ある明日のために 「ノーマライゼーションと心のバリア	

～12日		十八楼	フリー」 講師：廣瀬靖雄(須田病院副委員長)	
平成11年(1999) 10月27～29日	平成11年度	愛知県		
平成13年(2001) 10月16・17日	平成13年度	三重県菰野 町湯の山		
平成15年(2003) 9月25・26日	平成15年度 甲州・東海ブ ロック精神保 健福祉促進研 修会	下呂市水明 館	1日目「親亡き後にそなえて」 講師：池原毅和(弁護士) 2日目「精神保健福祉の展望」 講師：大重三郎(岐阜県精神保健福祉セ ンター所長) 分科会①「こんな生活がしたい」 ～当事者の夢を聞こう～ ②「親亡き後をどうする」 ～家族の悩みを共に考える～ ③「困った時の緊急対応」 ～家族の望む精神科救急～	406名
平成17年(2005) 10月20・21日	平成17年度	焼津グラン ドホテル	「精神障害者として、そして精神障害者 の家族として生きる」 講師：watori(わたりとしお改め)	
平成18年(2006) 11月	平成18年度	三重県伊勢 市	大会テーマ「幸せに生きる」	
平成19年(2007) 11月	平成19年度	蒲郡市ホテ ル竹島(愛知 県)		
平成20年(2008) 11月19・20日	平成20年度 甲州・東海ブ ロック家族会 岐阜大会	県民文化ホ ール 未来会館	「精神障害を考える、その家族の在り方 について」～精神疾患を良く知り、自 ら社会参加の道を、切り拓こう～ 講師：三野善央(大阪府立大学教授) 「地域障がい者を支える、地域ネットワ ーク作りの必要性について」 ～その充実の為に、各組織がなすべき こと～ 講師：吉川武彦(中部学院大学 教授)・3分科会	480名
平成21年(2009) 11月19・20日	平成21年度	蒲郡市ホテ ル竹島	「当事者が独りで暮らせる地域社会を 目指して」講演：「リカバリーを合言 葉に」	640名

			講師：福智院長(すすかけクリニック) 講演：「障害者と共にワークネット活動」	
平成22年(2010) 10月19・20日	平成22年度	静岡県コンベンションアーツセンター	「魅力ある家族会を目指して」 家族の役割の再確認と地域の中での存在感を 講師：川崎洋子(みんなねっと理事長)	982名
平成23年(2011) 11月10・11日	平成23年度	松阪市コミュニティセンター	「健康な社会を育てる」～笑顔のある未来のために、一緒に進もう～ 記念講演：「白衣を捨てて町に出よう」 講師：(伊藤順一郎) 第1～4分科会	530名
平成24年(2012) 11月8・9日	平成24年度	富士河口湖ふれあいセンター	「精神保健—日本の常識は世界の非常識—」 講師：大熊一夫(ジャーナリスト) 「仕事のある暮らし、リカバリーの現状」 講師：中谷真樹(住吉病院院長)	350名
平成25年(2013) 11月14・15日	平成25年度 甲州・東海ブロック精神保健福祉促進研修会(西農大会)	大垣市スイトピアセンター	記念講演「岡山県のATC医療の取り組みについて」 講師：藤田健三(元岡山県精神保健福祉センター所長) 特別講演：「新しい治療を臨床に活かす」～障がい者が地域で“暮らす為に”薬ができること～ 講師：天野雄平(各務原病院診療部長) 第1～3分科会	350名
平成26年(2014) 11月13・14日	平成26年度	愛知県蒲郡市民会館	記念講演：「統合失調症の会名に挑む～臨床医がなぜ研究するのか～」 講師：糸川昌成 シンポジウム：アウトリーチによるこれからの地域生活支援	
平成27年(2015) 11月12・13日	平成27年度	浜松福社交流センター	講演：「町での暮らしを創る～地域支援拡充の方向～」 講師：井澤雄一(全国精神障害者地域生活支援協議会代表) 4分科会	478名
平成28年(2016) 10月27・28日	平成28年度	三重県津市	第9回全国精神保健福祉家族大会と兼ねる	1,250名
平成29年(2017) 11月9・10日	平成29年度	山梨県河口湖町	講演：北病院の歴史から、精神科の未来を考える。「病識と治療継続、クロザピ	150名

			ン、死亡リスクなども含めて」 講師：藤井康雄（山梨県立北病院院長）	
平成30年(2018) 11月9・10日	平成30年度 甲州・東海ブ ロック精神保 健福祉促進研 修会(高山大 会)	高山市民会 館 (県大会を兼 ねる)	社会的自立に向けた地域精神医療・支援 の在り方 基調講演：「開かれた地域医 療に、進めるようアウトリーチ」 講師：伊藤順一郎(メンタルヘルス診療 所しっほふぁーれ院長) シンポジウム：「地域支援と精神医療の これから進むべき道飛騨から」 分科会①「当事者の自立に向けた作業所 の在り方」②「元気な家族会への挑戦」 ③「地域とのつながりの大切さ、リカ バリーに必要な要素」	390名
令和元年(2019) 11月7・8日	令和元年度	愛知県刈谷 市	第12回全国精神保健福祉家族大会 in 愛知と兼ねる	1,800名
令和2年(2020) 11月	令和2年度	あざれあ (静岡市)	新型コロナウイルスのため、令和3年度 に延期	

◎精神保健福祉全国大会（みんなねっと大会）

全国精神障害者家族連合会（全家連）後に、全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）

第1回大会は、昭和40年（1965）に開催された。第40回まで開催。

平成19年（2007）に、全家連の破産・解散総会が開催された。

平成19年（2007）に全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）が結成され、平成20年（2008）10月29～30日、第1回全国精神保健福祉家族大会（みんなねっと東京大会）が開催され、その後毎年開催されている。岐阜県では、全国大会は開催していない。

令和2年度（2020）の宮崎県大会は、新型コロナウイルス感染拡大により中止となった。

- ・甲州・東海ブロック（愛知、静岡、三重、山梨県）で開催された大会について記す。
- ・1965～1995は、「みんなで歩けば道になる：全家連30年のあゆみ」に詳しく記載されている。

開催日	回	会場	内容	参加人数
昭和40年(1965) 10月10日	第1回	新宿安田生 命ホール (東京都)	会則、事業計画、役員選出等	500名
昭和47年(1972) 5月23日	第8回	名古屋市公 会堂 (愛知県)	公開座談会：「精神障害者の社会復帰について」	700名
昭和56年(1981) 10月13日	第14回	静岡市文民 化会館	講演：「精神障害者の社会復帰をめぐる諸問題」 講師：土居健郎(国際キリスト教大学教授)	1,200名

平成元年(1989) 11月16・17日	第22回	甲府市県民 文化ホール など(山梨県)	公開講座「精神障害者の未来を見つめて～過去と 現在から～」	1,500名
平成5年(1993) 10月5・6日	第26回	名古屋市 国際会議場 (愛知県)	公開座談会「精神障害者施策の現状と今後の展 望」 講演:「精神障害者の医療と社会復帰への 見通し」 講師:笠原嘉(藤田保健衛生大学教授)	2,200名
平成12年(2000) 11月16～17日	第33回	静岡市コン ベンション	講演「21世紀の精神保健福祉と家族・家族会」 講師:高橋清久(国立精神神経センター総長)	
平成20年(2008) 10月29・30日	第1回 全国精神 保健福祉 家族大会	東京都厚生 年金会館	講演「元気な家族・活力ある家族会をめざして」 講演「統合失調症との付き合い方」 講演「これからの精神障害者福祉」	
平成28年(2016) 10月27・28日	第9回	三重県	基調講演:「誰でもわかる認知療法」 講師:大野 裕記、 記念講演:渡邊博幸 ◎甲州・東海ブロック大会と兼ねる。	1,250名
令和元年(2019) 11月7・8日	第12回 全国精神 保健福祉 家族大会 in 愛知 刈谷大会	刈谷市総合 文化会館・ 産業振興セ ンター	テーマ:「誰もが幸せと感じられる社会を！」 基調講演:「社会で暮らす当事者のための精神医 学は何かができるか」～妊娠出産から自動車運転 まで～ 講師:尾崎紀夫 記念講演:「ベルギーにおける地域移行について」 講師:バーナード・イエイク(ベルギー保健省・ 精神保健改革コーディネーター)1～6分科会	1,800名
令和2年(2020)	宮崎県		新型コロナウイルスのため中止	
令和3年(2021) 10月予定	東京都		(予定)	

3) 啓発事業(精神障害者支援の講演会)

◎「知ってもらいたい心の病」研修会の開催

現在啓発事業として、「ぎふかれん」が岐阜県から委託を受けている。平成17年度(2005)までは、岐阜県精神保健福祉ボランティア連絡協議会が主体で年2回実施されていた。

平成18年度(2006)からは岐阜県精神保健福祉ボランティア連絡協議会1回、「ぎふかれん」1回の開催となった。家族ばかりでなく一般の方にも参加頂き開催している。

第1回は平成14年(2002)岐阜市ハートフルスクエアGで開催、年2回で、現在37回目(令和2年10月)を数える。

主に、話題になっている問題(病気への理解、医療・薬、各種社会資源、年金問題、親なき後など)を取り上げ、精神科医師・医療スタッフ、支援機関・行政機関・作業所関係者の講演会・シンポジウムや当事者の体験発表会などを行ってきた。

回	開催日	会場	内 容	参加人数
1	平成 14 年 (2002 年) 11 月	ハートフルス クエアG (岐阜市)	「心の病とは」 講師：大泉頼三郎（岐阜県精神保健福祉センター所長） 体験発表 2 名*社会復帰に至るまで *家族の立場から コーディネーター 天野薫（中部学院大学）	130 名
2	平成 15 年 (2003 年) 1 月	セラトピア土 岐 (土岐市)	「心の病とは」 講師：大泉頼三郎（岐阜県精神保健福祉センター所長） 体験発表 2 名 *社会復帰に至るまで *家族の立場から コーディネーター 天野薫（中部学院大学）	
3	平成 16 年 (2004 年) 2 月	中濃総合庁舎 (美濃市)	「心の病とは」 講師：須田初美（岐阜県精神保健福祉センター保健福祉課長） 体験発表 当事者の立場から 2 名 *私の体験（ハウス希望） *幸福を感じて（フレンドシップつくしの家） 家族の立場から 3 名 あけぼの会・郡上つくし会・郡上つくし会会長 コーディネーター：原義則（地域生活支援センター すいせい）	63 名
4	平成 16 年 (2004 年) 7 月	大垣市総合福 祉会館 (大垣市)	「心の病とは」 講師 丹羽伸也（岐阜県精神保健福祉センター所長） 体験発表 当事者の立場から ハウス希望 2 名 家族の立場から あけぼの会 コーディネーター 天野薫（中部学院大学）	
5	平成 17 年 (2005 年) 2 月	県健康科学セ ンター (各務原市)	「心の病とは」 講師：丹羽伸也（岐阜県精神保健福祉センター所長） 体験発表 当事者の立場から カモミールの会 家族の立場から あけぼの会	125 名
6	平成 17 年 (2005 年) 7 月	古川町総合会 館 (飛騨市)	「精神障がい者 青葉の家ってどういうところ」 講師：伴場計彦（青葉の家所長） 体験発表 当事者・家族の立場から 青葉の家 コーディネーター 牧上美由紀（地域生活支援センター やまびこ施設長精神保健福祉士）	
7	平成 17 年	羽島市福祉心	「心の病とは」	82 名

	(2005年) 12月	れあい会館 (羽島市)	講師：丹羽伸也(岐阜県精神保健福祉センター所長) 体験発表 当事者の立場から カモミールの会 家族の立場から たんぼぼ会	
8	平成18年 (2006年) 6月24日	瑞浪市総合セ ンター (瑞穂市)	「心の病とは」 講師：丹羽伸也(岐阜県精神保健福祉センター所長) 体験発表	121名
9	平成19年 (2007年) 3月17日	美濃加茂市総 合福祉会館 (美濃加茂市)	「地域でゆとりのある生き方をするために、家族と地域のほんの少しの理解と優しさを」 講師：臼井潤一郎(地域支援センターひびき施設長)	68名
10	平成19年 (2007年) 8月25日	大垣市総合福 祉会館 (大垣市)	「自立のために、地域支援センターの役割について」 講師：西川真美(清風会地域活動支援センター「せせらぎ」施設長) 体験発表 クラブハウス施設長 クラブハウス 3名	103名
11	平成20年 (2008年) 3月23日	岐阜市日光コ ミュニティー センター (岐阜市)	「精神障がい者が地域で安心、安全に暮らし続けるには～みんなで語ろう当事者の医・職・住～」 体験発表 当事者2名 家族2名 コーディネーター 柳澤孝志(岐阜市保健所) アドバイザー 梅原美幸(社会福祉協会)	95名
12	平成20年 (2008年) 8月9日	瑞穂市総合セ ンター (瑞穂市)	「クラブハウスゆうせんでの取り組みをとおして」 講師：波多野彰彦(クラブハウスゆうせん施設長) 体験発表 クラブハウスのメンバーたち 体験発表 当事者の立場から カモミールの会 家族の立場から あげぼの家	105名
13	平成21年 (2009年) 3月17日	東濃西部総合 庁舎 (多治見市)	「障がい者が地域で安心して暮らし続けるために」 講師：安藤宜明(ホーリークロスセンター施設長) ホーリークロスセンター家族からの話 コーディネーター：藤吉伸行(聖十字病院医療相談室長)	125名
14	平成21年 (2009年) 8月29日	高富中央公民 館 (山県市)	「病院のサービスを上手に利用するためには」 講師：岡崎勝彦(養南病院 精神保健福祉士)	102名
15	平成22年 (2010年) 3月14日	飛騨市古川町 公民館 (飛騨市)	「正しい知識を得て、障がい特性を知る」 講師：長瀬義勝(須田病院デイケアセンター長)	122名
16	平成22年 (2010年) 7月31日	可児市福祉セ ンター (可児市)	「安心して暮らすために」 ～自分らしさを生かせる生活を目指そう～ 講師：浅野雅彦(地域生活支援センターすいせい施設長)	152名

			体験発表 当事者の立場から 中濃わかば会 1名 家族の立場から 加茂地区家族会 1名	
17	平成23年 (2011年) 3月19日	大和町生涯学 習センター (郡上市)	「偏見のない社会生活がしたい」 講師：西村省一(フレンドシップつくしの家施設長)	189名
18	平成23年 (2011年) 6月25日	海津公民館 (文化センター) (海津市)	体験発表会「今、旅立とう」 ～恋愛・仕事・家族～ サポーターと共に主体的な生き方をしていく方法を見つめよう「自分らしく自立して生きていくには」 講師：岡崎勝彦(養南病院精神保健福祉士)	120名
19	平成24年 (2012年) 3月17日	日光コミュニ ティーセンタ ー(岐阜市)	「自立支援の今後の動向について」 講師：岡崎勝彦(養南病院精神保健福祉士)	60名
20	平成24年 (2012年) 6月2日	羽島市ふれあ い会館 (羽島市)	「家族会の活性化と作業所の課題」横のつながりを深めよう～家族会・作業所を生き生きと 講師：久保田正司(ハウス希望理事長)	62名
21	平成25年 (2013年) 2月27日	恵那総合庁舎 (恵那市)	「統合失調症への理解と治療」 講師：曾根靖貴(大湫病院 ^{おおくて} 副院長)	79名
22	平成25年 (2013年) 6月8日	各務原市中央 図書館 (各務原市)	①「一人ぼっちになる前に」地域で暮らす・地域で生きる・成年後見制度を知ってみよう 講師：青木文子(司法書士) ②体験発表 熊谷久子(岐阜市あけぼの会)	170名
23	平成26年 (2014年) 2月19日	岐阜県福祉・農 業会館 (岐阜市)	要求実現の運動が作り出す「家族の力」 講師：堀場洋二(名家連会長)	25名
24	平成26年 (2014年) 6月15日	北方町公民館 (北方町)	「いま、私にもできること」 ～だれもが安心して暮らすために～ 講師：栗本剛(mottoひょうご事務局長) 体験発表 クラブハウス「ゆうせん」の当事者	120名
25	平成27年 (2015年) 2月21日	結びの地記念 館 (大垣市)	「障害年金について」 講師：白石美佐子(社会保険労務士)	62名
26	平成27年 (2015年) 7月26日	垂井町文化会 館 (垂井町)	「精神障がい者の障害とは」 ～生活のしづらさとリカバリー・その理解について～ 講師：波多野彰彦(サポートハウスカラリア施設長)	164名

27	平成27年 (2015年) 10月7日	関市わかくさ プラザ (関市) 午後県大会	シンポジウム:「まずは一歩! やりたいようにやってみよう!」 午後:「家族・当事者・精神科医の3つの立場を経験して思うこと」 講師:夏苺郁子(やきつべの径診療所精神科医) *27回は、啓発事業(県委託事業)としてシンポジウムを午前中に、県大会を午後に行った。	295名
28	平成28年 (2016年) 7月23日	羽島市福祉ふ れあい会館 (羽島市)	「この町で暮らす、私、家族」 講師:岡崎勝彦(海津くらしサポートセンター長)	94名
29	平成29年 (2017年) 2月25日	高山市民文化 会館(高山市)	「統合失調症について」 講師:近藤隆夫(須田病院)	170名
30	平成29年 (2017年) 7月29日	揖斐川町地域 交流センター (揖斐川町)	「～地域で生きる、ともに働き・暮らす～」 講師:栗谷賢吾(NPOリバティアー) 「社会資源を知ろう・使おう・つなげよう」 講師:田中忍(大垣市社協 社会福祉士)	73名
31	平成30年 (2018年) 2月17日	岐阜県障がい 者総合相談セ ンター (岐阜市)	「これからの精神医療の在り方 ～対話とピアサポート～」 講師:中谷真樹(山梨県甲府市住吉病院院長)	82名
32	平成30年 (2018年) 7月21日	坂祝町総合福 祉会館 (坂祝町)	「精神障がい者が、親亡き後に、誰もが安心して暮らせるために」 講師:児玉佳也(のぞみの丘ホスピタル院長)	110名
33	平成31年 (2019年) 3月1日	岐阜市ハート フルスクエア G(岐阜市)	「精神障害者の地域支援を考える～舟伏の活動家から、当事者を主人公に～」 講師:森敏幸(舟伏総合施設庁)	60名
34	令和元年 (2019年) 7月14日	大野町総合町民 センター (大野町)	「精神障害者の障害とは?関わり方とその理解について」講師:河村真志(河村心理相談室)	131名
35	令和元年 (2019) 10月6日	美濃市中央公 民館 (美濃市)	「障害者差別解消法と学齢期における支援教育について～家族支援の視点から～」 講師:池内剛(岐阜大学教授)	40名
36	令和2年 (2020) 9月26日	セラトピア土 岐 (土岐市)	「精神疾患の診断と対応～統合失調症・発達障害～」 講師:深尾琢(岐阜大学医学系研究科 臨床講師・助教教授)	80名

37	令和2年 (2020) 10月3日	瑞穂市総合セ ンター (瑞穂市)	「障害と共に生きる～持続可能な社会に向けて～」 講師：神山 忠（発達障害者当事者）	80名
----	-------------------------	------------------------	--	-----

◎「岐阜県精神保健福祉研修会」

家族会会員等を対象として、年1回開催されている。「知ってもらいたい心の病」が、一般の方を対象に障がい者・家族の実態を理解してもらおう啓発の面が強いのに比べ、岐阜県精神保健福祉研修会は医療・福祉等の勉強・研修の場として開催。近年は、「知ってもらいたい心の病」との明確な違いはなく、一般の方の参加を頂いている。「知ってもらいたい心の病」と合わせて、県委託事業として、平成18(2006)年度から行われた。

日付	主催	会場	内容(講演)	参加人数
平成18年 (2006年) 8月25日	岐阜県精神障 がい者家族会 研修会	岐阜県精神 保健福祉セ ンター研修室	障害者自立支援法による社会復帰施設の計画 10月から施行の精神障害者福祉医療費・自立支 援医療費負担について 講師：角田弘実・渡辺量子(保健医療課)	
平成19年 (2007年) 9月4日	岐阜県精神障 がい者家族会 研修会	福祉・農業 会館研修室	「これからの家族会・今後の医療福祉」 講師：丹羽伸也(岐阜県精神保健福祉センター所長)	
平成20年 (2008年) 2月18日	岐阜県精神障 がい者家族会 研修会	福祉会館集 団療法室	「地域移行支援事業について」 講師：今井信夫(県保健医療課課長補佐)	25名
平成21年 (2009年) 7月12日	岐阜県精神障 がい者家族会 研修会	岐阜市日光 コミュニティカ フェ	「今、全国で話題の精神医療福祉のACTKチー ムの実践報告」 講師：高木俊介(ACT-K 院長)	104名
平成22年 (2010年) 7月18日	岐阜県精神障 がい者家族会 研修会	岐阜市日光 コミュニティカ フェ	「当事者と家族が元気になるために」 講師：高森信子(心のカウンセラー・SSTリーダー)	105名
平成23年 (2011年) 7月3日	岐阜県精神保 健福祉研修会	岐阜市日光 コミュニティカ フェ	「よくわかる成年後見制度」 講師：渡辺哲雄(日本福祉大学教員 ・NPO 東濃成年後見センター理事長)	50名
平成24年 (2012年) 10月6日	岐阜県精神保 健福祉研修会	岐阜市日光 コミュニティセ ンター	「ACTで精神保健福祉医療へ」 講師：杉田憲夫(天外心外クリニック院長)	57名
平成26年 (2014年) 2月26日	岐阜県精神保 健福祉研修会	岐阜市日光 コミュニティセ ンター	① 統合失調症に関するDVD上映 ② 双極性障害について 講師：岩田仲生(藤田保健衛生大学)	56名

平成 26 年 (2014 年) 8 月 8 日	岐阜県精神保 健福祉研修会	各務原市中 央図書館	「精神症状が不安定になった時の受け止め方、 親子の付き合い方」 講師：臼井潤一郎（地域生活支援センターひびき）	58 名
平成 28 年 (2016 年) 1 月 29 日	岐阜県精神保 健福祉研修会	ぎふメディア 入	「精神障害を持つ人の地域生活支援」 講師：三田優子（大阪市立大学）	55 名
平成 28 年 (2016 年) 11 月 8 日	研修会 午後 県大会	ぎふ清流文 化プラザ	シンポジウム「精神障がい者が地域で 自分らしく暮らすには」 コーディネーター：内木克治（精神保健福祉士） 午後：講演「イギリスから学ぶ家族支援」 講師：大野美子	300 名
平成 29 年 (2017 年) 10 月 13 日	研修会 午前 県大会	東美濃ふれ あいセンタ ー	シンポジウム「親なき後に向けて ～当事者・家族に出来ること～」 コーディネーター：藤木誠（ホーリックロスセンター長） 午前：「精神科医療の現在と未来」講師：井川真	240 名
平成 30 年 (2018 年) 12 月 22 日	岐阜県精神保 健福祉研修会	岐阜市ハート ルシアG	「欧州から学ぶ、これからの精神医療の在り方」 講師：野村忠良 氏(月刊みんなねっと編集長)	70 名
令和 2 年 (2020 年) 2 月 1 日	岐阜県精神保 健福祉研修会	ぎふメディア 入	「精神障害者が地域でいきいき暮らせるために ～誰もが自らの人生の主人公～」 講師：青木聖久(日本福祉大学教授)	102 名
令和 3 年 (2021 年) 1 月 11 日	岐阜県精神保 健福祉研修会	多治見市 文化会館	「オープンダイアログを目指した取り組み ～病院から地域へ～」 講師：琵琶湖病院 地域移行ユニット 村上純一(精神科医)・山中一紗(精神保健福祉士)	79 名

4) 電話相談事業

昭和 60 年（1985 年）12 月に発行された「ぎふかれん誌」第 2 号に、「家族相談室を毎週水曜日午前 10 時から午後 3 時に開設した。」との記載がみられる。

電話相談事業として、平成 18（2006）年度に「こころの病」家族相談センターを、月～金 10:00～15:00 開始した。その後、平成 20 年には相談日を毎週火・木曜日の 2 日間とした。以降、平成 28 年まで継続。中日新聞社会福祉事業団より助成金を受け実施。新聞に相談案内を掲載して頂いている。

平成 27・28（2015・2016）年度、「電話相談のための学習会」を開催。

◎平成 29（2017）年より、予算 65 万円/年を受け、岐阜県の委託事業として、正式に「電話相談事業」を行う。火曜日・木曜日、10:00～15:00。

電話相談レベルアップ研修会を年2回開催し、「ぎふかれん」と各家族会の電話担当者の研修を行っている。

◎令和2(2020)年度からは、予算90万円/年を受け、委託事業を拡大し、週3日(火・木・金曜日)、10:00~15:00実施。電話相談レベルアップ研修会を年2回開催。

●面接・インターネット相談事業を令和2年度から、「ぎふかれん」の事業として中日新聞社会福祉事業団の助成を受け、発足させた。

相談件数の推移、研修会の内容など

年 度	摘 要 (電話相談のための研修会など)	電話対応件数/年
平成 18(2006)年度	「心の病」家族相談センター開設 (新事業) 10:00~15:00 月~金	75 件
平成 19(2007)年度	同上 (月~金)	
平成 20(2008)年度	火・木曜日 10:00~15:00	81 件
平成 21(2009)年度	同上	60 件
平成 22(2010)年度	同上	59 件
平成 23(2011)年度	同上	60 件
平成 24(2012)年度	同上	39 件
平成 25(2013)年度	同上	27 件
平成 26(2014)年度	同上	92 件
平成 27(2015)年度	精神障がい者家族会のピアサポート相談研修会 日時：平成 28 年 2 月 24・25 日 (水・木) 会場：岐阜市メディアコスモス 1 日目知識編 講演「家族支援について」 講師：臼井潤一郎 (地域活動支援センターひびき施設長) 講演「精神疾患の治療の進め方」 講師：淡路理恵 (岐阜病院精神科医) 2 日目実技編 事例検討と実技実習 指導者：熊谷久子 (精神保健福祉士)	104 件
平成 28(2016)年度	ピアサポート研修会 (日本財団助成事業) 会場：福祉・農業会館 1 日目：平成 28 年 12 月 24 日 「病気について理解、社会資源の理解とその利用法」 講師：桜庭 泰 (岐阜県精神保健福祉センター：精神科医) 「社会資源とその利用法について」 講師：内木氏 (地域支援センター24 の瞳) 「一般的な社会資源の利用法について」講師：岩崎氏 (PSW) 2 日目：平成 29 年 1 月 18 日 「電話相談の技術」 講師：熊谷・岩崎氏 (精神保健福祉士)	74 件
平成 29(2017)年度	平成 29 年度から岐阜県の委託事業となる。火・木曜日 スキルアップ研修会 第 1 回：平成 29 年 9 月 29 日「電話相談事例の検討会」 講師：熊谷久子 (精神保健福祉士) 第 2 回：平成 30 年 1 月 18 日「電話相談に活かす、聞く技術」 講師：國島氏 (岐阜県精神保健福祉センター)	146 件
平成 30(2018)年度	スキルアップ研修会	114 件

	第1回：平成31年1月18日 「岐阜県障がい者差別支援センターでの電話相談について」 今村氏（社会福祉士・介護支援専門委員・広域専門センター相談員） 第2回：平成31年3月11日「障害年金」・「電話相談で困った事例」 アドバイザー：市川氏（岐阜県精神保健福祉センター：精神科医）	
平成31(2019)年度	スキルアップ研修会 第1回：令和元年10月25日 「知っておくと役に立つ社会資源・サービス」について 講師：永井・市川氏（くらしケア） 第2回：令和2年1月27日「入退院に関して家族の心構えについて～特に、退院後支援計画・相談事例・その他～」 講師：國島氏（岐阜県精神保健福祉センター）	196件
令和2(2020)年度	令和2年度から事業拡大し、火・木・金曜日 電話相談実施 「ぎふかれん」独自事業として、面接・インターネット相談も行う。 スキルアップ研修会 第1回：令和2年9月2日 「電話相談対応の仕方～自殺予防と電話相談～」 講師：河村氏（臨床心理士・河村心理相談室） 第2回：令和3年2月8日 「最近に相談を受けた事例発表」 講師：熊谷氏（精神保健福祉士）	264件 （2021年2月末時点）

5) ぎふかれん誌（機関紙）の発行

創刊号は、岐阜県精神障害者家族会結成の10年後、昭和60年（1985）に発行され、家族会結成時の情報が良く記載されている。第2号は同年12月に発行されている。

その後、6年間未発行で、平成4（1994）年から再開され、年1回～3回のペースで、現在第66号（令和3年1月）に至っている。本誌は、岐阜県精神保健福祉社会連合会の機関誌と位置付けられている。

なお、第3号からは「岐阜県共同募金会からの寄付で作成しました」との記載がみられる。

今回の「ぎふかれんのあゆみ」は、この「ぎふかれん誌」の記載内容を参考に作成した。

特記事項として、重要な事柄や「あゆみ」の項目にないものを以下にまとめた。

巻号	発行年	「ぎふかれん誌」の特記事項
1号	昭和60年 (1985年)	創刊号 （昭和49年～60年の経過） ○「ぎふかれん」の創立経緯、各家族会の情報が記されている。
2号	昭和60年 (1985年)12月	○「ぎふかれん」の家族会員数：1,200余名 ○1983年6月、県障害者長良共同作業所を岐阜市に開設 ○岐阜県精神障害者家族連合会（県家連・ぎふかれん）の事務局 岐阜市下奈良2-2-1 福社会館、県精神衛生センター内とする。 ○県家連事務局に「家族相談室」を開設。
3号	平成4年 (1992年)10月	○「国連・障害者の10年」最終年記念国民会議・全国キャラバン実施 平成4年11月4～5日「列島縦断キャラバン」が来岐し、岐阜県知事らを表敬訪問し要望書を手渡す。

		○岐阜県が、「国連・障害者の10年」最終年記念の「ヒューマン・フェスティバル岐阜'92」を実施。平成4年12月6日
6号	平成5年 (1993年)6月	○平成5年度共同募金の配分を受け、県下8共同作業所にファックスを設置(ふきのとう、第1・第2あけぼの苑、青葉の会、わかば、ひかりの家いぶき、ドリームプラザ)
7号	平成6年 (1994年)2月	○昭和62年以降、保健所・精神保健センターにおいてデイケア事業実施。 ○小規模授産所の運営費、国庫補助開始。 ○昭和63年、精神衛生法改正、任意入院制度、応急入院制度が創設。 ○精神障害者援護寮・精神障害者福祉ホーム及び精神障害者通所授産施設が創設、施設整備、運営の国庫補助行われる。 ○平成元年～精神障害者の税制上の優遇措置を受けやすくするために、精神障害の証明書発行。 ○平成4年～グループホームとして、地域で生活する精神障害者を対象として、食事の世話、服薬指導のサービス提供。精神障害者ショートステイが精神障害者援護寮に整備。
9号	平成6年 (1994年)12月	○障害者基本法 平成5年12月公布。
10号	平成7年 (1995年)2月	○阪神大震災義援金を育成会から出す。
13号	平成8年 (1996年)1月	○障害者基本法、平成7年7月1日施行。精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)10月より、障害者福祉手帳の創設、10月より申請受付、11月以降手帳交付。
16号	平成9年 (1997年)5月	○全家連 医療保険改正に伴う医療費負担増について要望書の提出。精神保健福祉士の国家資格化に取り組む。 ○「障害者プラン～ノーマライゼーション7か年計画(平成8～14年)」
20号	平成10年 (1998年)6月	○平成7年に精神福祉に関する法律が制定され、福祉手帳が配布されているが、メリットが少なく、取得者が少ない。手帳サービス、メリット拡大運動として、200万人目標の請願署名とJR各社へ運賃割引を交渉する。
23号	平成11年 (1999年)6月	○「精神保健福祉法改正案」が5月28日に成立。 ○手帳サービス拡大に関する請願署名、国会へ提出 署名数 全国：1,040,460筆、岐阜県：22,051筆、引き続き署名活動が継続される。
25号	平成12年 (2000年)6月	○行政報告「移送制度」が出来る。平成11年度の法改正。 1) 当事者の人権に配慮した移送 2) 自傷他害の恐れのある当事者の保護者の連絡・同意 3) 移送に関する方法 4) 社会復帰の中で在宅当事者への対応

26号	平成12年 (2000年)10月	○「ぎふかれん」特定非営利法人化 平成12年7月21日に登録。 ○障害者手帳サービス拡大署名、200万人目標、岐阜県では目標の104%の26,843筆の署名が集まった。
27号	平成13年 (2001年)2月	○平成14年から精神保健の行政関係が市町村に移管され、ホームヘルプが実施されるようになる。 ○ぎふかれん傘下家族会数22。
号外	平成13年 (2001年)6月	○大阪での小学校児童殺傷事件についての全家連の見解を記載 報道機関等への報道被害に対する要望。
28号	平成13年 (2001年)8月	○大阪での小学校児童殺傷事件にかかわる「ぎふかれん」の見解を記載
33号	平成18年 (2006年)6月	○平成18年4月1日「障害者自立支援法」施行 身体・知的・精神の同一の枠内での取り扱い（3障害一元化） 岐阜県では、 <u>○平成18年10月から精神障害者医療費、手帳1・2級無料になる</u> ○この頃から県下全域の路線バス運賃割引（半額）が実施される。（開始年度は異なる）
35号	平成19年 (2007年)6月	○全国精神障害者家族連合会（全家連）、破産・解散。 平成19年4月17日 平成19年度第1回総会で決定。42年間の歴史に幕を閉じた。 ○全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）が引き継ぐ。 ○平成18年「心の病」家族電話相談センター開設（新規事業）
36号	平成20年 (2008年)1月	○平成19年4月1日から障害者自立支援法により小規模作業所から自立給付事業所に移行が始まる。
37号	平成20年 (2008年)7月	○平成20年7月28日、特定非営利活動法人岐阜県精神障害者家族会連合会から 特定非営利活動法人 岐阜県精神保健福祉会連合会 に改称する（略称は今までと同じ「ぎふかれん」）。 ○平成20年10月29～30日、第1回全国精神保健福祉家族大会（みんなねっと東京大会）開催。
38号	平成21年 (2009年)1月	○「岐阜県が福祉医療費制度を他県に先駆け実施され数年が経て、障がい者が安心して治療が受けられることは誠に喜ばしい」と感謝の挨拶。 （1月号の今村理事長の挨拶から）
42号	平成22年 (2010年)8月	○厚生省チーム 精神疾患患者への訪問支援（アウトリーチ）導入合意。 医療や福祉の専門チームが精神疾患患者の自宅を訪ね、治療や生活の相談にのる訪問支援を本格導入することで合意した。日本では現在12チームある。（平成22年6月18日朝日新聞引用）

43号	平成22年 (2011年)1月	○「ぎふかれん」が、精神障害者とその家族に向けた啓発の「ガイドブック」の作成と配布。各圏域毎にとりまとめ、作成・配布。
45号	平成23年 (2011年)9月	○障害者虐待防止法、平成23年6月17日成立。 ○東日本大震災義援金出す
46号	平成24年 (2012年)1月	○平成21年「障害者制度改革推進本部」設置。この会議の下に総合部会がもうけられた。このメンバー55名の半数が当事者・家族の関係者。
48号	平成24年 (2012年)10月	○岐阜県初のACT誕生 天外メンタルクリニック ACT-HG ○「障害者虐待の防止、障害者の擁護者に対する支援等に関する法律」平成24年10月1日より施行。 ○ぎふ清流大会（第12回全国障害者スポーツ大会）平成24年10月13～15日 開催
49号	平成25年 (2013年)1月	○当会副理事長、牧野正義氏逝去（郡上つくし会）
51号	平成26年 (2014年)1月	○第6回みんなネット大阪大会の川崎洋子会長の活動報告から「みんなねっと」では、地域で暮らすためにはどんな社会資源が必要かを調査し、7つの提言をまとめた。 ①本人・家族のもとに届けられる訪問型の支援・治療サービスの実現 ②24時間・365日の相談支援体制の実現 ③本人の希望にそった個別支援体制の確立 ④利用者中心の医療の実現 ⑤家族に対して適切な情報提供がされること ⑥家族自身の身体的・精神的健康の保障 ⑦家族自身の就労機会および経済的基盤の保障 ○ 行政報告：精神保健福祉法の改正 <u>日本が障害者権利条約批准</u> 平成26年（2014）1月20日、日本は国連に障害者権利条約の批准書を寄託した。日本は141番目の締結国となる。
53号	平成27年 (2015年)1月	○「みんなねっと」がメリデン家族支援プロジェクトチームを立ち上げる ○平成27年4月 県精神保健福祉センター移転（下奈良から鷺山向井へ）
55号	平成28年 (2016年)1月	○精神障がい者家族会のピアサポート相談研修会の実施 平成28年2月24日・25日
56号	平成28年 (2016年)6月	○JR運賃割引署名簿 平成28年4月15日最終とりまとめ 6,649筆。 ○県選出の衆参国会議員全員に紹介議員になってもらい、5月13日、ぎふかれんの副理事長久保田・山田が東京の議員会館へ署名簿を手渡しに行く。
57号	平成29年 (2017年)1月	○「ぎふかれん」ホームページの立ち上げ ○精神障がい者家族の支援者養成研修会の実施（日本財団助成事業） 県委託電話事業への準備

		1 回目：平成 28 年 12 月 24 日 2 回目：平成 29 年 1 月 18 日
58 号	平成 29 年 (2017 年)7 月	○家族電話相談が岐阜県委託事業となる。予算 65 万円/年で実施。
62 号	平成 31 年 (2019 年) 3 月増刊号	講演録 ①平成 30 年度甲州・東海ブロック精神保健福祉促進研修会 伊藤順一郎（メンタルヘルス診療所しほふぁーれ所長）の講演 加藤秀明（須田病院院長）のシンポジウム ②平成 30 年度岐阜県精神保健福祉研修会 野村忠良（みんなねっと編集長）の講演
	令和 2 年 2 月	2019 年度あゆみ概略版の発行
65 号	令和 2 年 (2020 年)7 月	「精神科医療に関するアンケート」集約結果（令和元年 6 月にアンケート実施） 厚生労働省が、毎年 6 月 30 日時点の全国の精神科医療機関の実態を把握する「精神保健福祉資料」を「630 調査」と言う。 岐阜県に開示請求したが、黒塗りが多く、「アンケート」実施。 ぎふかれん会員の当事者・家族を対象に「アンケート」を実施。127 名の回答を得た。診断名、診療時間、転院回数、診察で良かった点・悪かった点、入院経験の有無、拘束体験の有無、入院中の面会の可否、薬の種類・数、意見等をまとめ掲載。
66 号	令和 3 年 (2021 年)1 月	「家族による家族学習会」の経過報告と案内 セミナー：10 月 28 日（水）40 名、 担当者養成研修会：11 月 30 日（月）12 名 事前準備会：1 月 30・31 日、 家族学習会：2 月 7・14・21 日、3 月 7・21 日

6) 作業所交流会

平成 2（1990）年 10 月に第 1 回の作業所交流会が開催された。第 1 回は指導員の研修会、話し合いの会が行われた。

第 1 3 回までは 2 日間にわたり、スポーツ交流・懇談会・検討会が開催された。その後、行事を 1 日とし、会場を 5 圏域の順番に開催した。スポーツ交流として、ソフトバレーボールやボーリング競技を行った。

ぎふ清流国体平成 24（2012）年で障がい者スポーツとして、ソフトバレーボールが正式採用となり、ソフトバレーボール一辺倒となった。その後、見直され、大垣市でグランドゴルフ大会平成 28（2016）年が行われた。各作業所の参加が少なく、これを最後にスポーツ交流会は中止となった。

なお、平成 26（2014）年度には、作業所交流会を、作業所の情報交換の場として、「ぎふかれん」加入の作業所以外の作業所にも呼びかけた。担当の「ハウス希望」が事務局として実施した。

その後、作業所交流会は中止に至っている。

回	開催年月日	開催地	内 容
1	平成 2 年(1990) 10 月 6～7 日	下呂町	初年度は指導員の研修会のみを行った

2	平成3年(1991) 10月2~3日	美濃加茂市 古井天狗苑	スポーツ大会：ソフトバレーボール 優勝：あけぼの苑（岐阜市） 分科会：①作業所をどのように利用したら良いか ③ 後の生活について
3	平成4年(1992) 11月7~8日	岐阜市 メリアル センター 岐山荘	スポーツ交流会（1日目）：ソフトバレーボール 参加：48名 8チーム 優勝：いぶき作業所（大垣市） 分科会（2日目）：
4	平成5年(1993) 6月26~27日	高山市 飛騨 体育館、宮村 センター ひまわり	スポーツ交流会（1日目）：ソフトバレーボール 優勝：あけぼの苑（岐阜市） 分科会（2日目）：
5	平成6年(1994) 10月29~30日	恵那市 グリーンピア 恵那	優勝：あけぼの苑（岐阜市）
6	平成7年(1995) 10月5~6日	美濃市	優勝：青葉の家共同作業所（高山市）
7	平成8年(1996) 9月26~27日	土岐市 ピア 土岐	スポーツ交流会（1日目）：ソフトバレーボール 9チーム参加 優勝：ひかりの家共同作業所（美濃加茂市） 社会見学（2日目）：瑞浪市「化石博物館」
8	平成9年(1997) 10月2~3日	大垣市 フォーラム 大垣	スポーツ大会：ソフトバレーボール 優勝：ひかりの家共同作業所（美濃加茂市）
9	平成10年(1998) 9月24~25日	下呂町	スポーツ交流会（1日目）：ソフトバレーボール 12チーム参加 参加者：131名 優勝：コスモス作業所（益田）
10	平成11年(1999) 10月28~29日	岐阜市	スポーツ交流会（1日目）：ボーリング・懇親会 参加者：130名 優勝：ひかりの家（美濃加茂市） 社会見学（2日目）：瑞浪市「化石博物館」
11	平成12年(2000)	美濃加茂市	優勝：ふれあいの家（恵那市）
12	平成13年(2001) 9月27~28日	高山市	ボーリング・懇親会 参加：130名
13	平成14年(2002) 9月26~28日	土岐市 恵那市	ボーリング 優勝：コスモス作業所（下呂市益田） 懇親会
14	不明		優勝：わかば共同作業所（関市）
15	平成18年 (2006)9月1日	岐阜市 西部体育館	ソフトバレーボール 参加：119名 9チーム 国体の正式種目としてソフトバレー競技が採用されたことから、以降ソフトバレーが行われるようになった。優勝：あけぼの苑（岐阜市）

16	平成21年(2009) 2月25日	安八町 総合体育館	ソフトバレー 優勝：あけぼの苑（岐阜市）
17	平成22年(2010) 10月23日	高山市 飛騨高山ビッ クリア	ソフトバレー 参加：118名 8チーム 優勝：憩いの家（飛騨市）
18	平成23年(2011) 11月25日	関市総合体 育館	ソフトバレー 参加：143名 9チーム 優勝：憩いの家（飛騨市）
19	平成24年(2012) 11月18日	岐阜市 岐陽体育館	ソフトバレー 参加：140名 11チーム 優勝：いぶき作業所（大垣市）
20	平成25年(2013) 11月16日	中津川市 東濃ふれあ いセンター	ソフトバレー 参加：161名 10チーム 優勝：フレンドシップつくしの家（郡上市）
21	平成27年(2015) 3月18日	岐阜市 ふれあい長 寿会館	ソフトバレーでなく、作業所の情報交換会を実施。 「ぎふかれん」傘下の作業所にこだわらず、幅広く各作業所 に呼びかけ、実施した。「ぎふかれん」事業から切り離して、 企画を担ってきた「ハウス希望」が事務局となり実施。
22	平成28年(2016) 11月26日	大垣市化 ^テ ッ 島 ^{ラド}	グランドゴルフ大会 優勝：中濃わかば会（関市）

（トロフィーには、開催大会名「第〇回」と優勝チーム名が記載されている。）

7) 岐阜県精神障がい者家族支援事業(5圏域ごとに実施)平成22～24年の3ヶ年

目的：精神疾患に悩む人・その家族に、家族会活動や、各種支援活動・制度の情報を共有して、障がいの地域移行を推進する。（国・県からの予算）

内容：映画上映・講演会・トークショー又はリーフレット作成

岐阜県精神障がい者家族支援事業

年度	日時	内 容		参加人数
平成22	2010年	リーフレット作成事業 5圏域毎にリーフレット(精神障がい者に関連した社会資源・公的機関・作業所・家族会の紹介等)を作成し配布する。		
平成23	2011年 9月3日	飛騨圏域	高山市文化会館 映画上演会：「破片のきらめき」 トークセッション：高橋慎二監督と出演者	170名
	2011年 12月10日	岐阜圏域	岐阜県立図書館 講演会：「不登校の真実」上映 講師：菊山裕貴(大阪精神医学研究所・新阿武山病院局長)	150名

	2012年 1月28日	西濃圏域	大垣市総合福祉 会館	講演会：「病気を正しく理解する」～ 薬の作用と上手な付き合い方、社会 資源を活用して、この町で自分らし く生きる～ パネルディスカッション	186名
	2012年 2月9日	中濃圏域	可児市文化創造 センター	講演会：「破片のきらめき」上映 トークセッション：高橋慎二監督と出 演者	153名
	2012年 3月24日	東濃圏域	セラトピア土岐	講演会：「問題があっても大丈夫」 講師：臼井潤一郎(精神保健福祉士)	182名
平成24	2013年 2月2日	岐阜圏域	岐阜市日光コミュニ ティーセンター	DVD「広がる“新しいところの病” ～混乱する精神科医療～」 講演会：「統合失調症の原因と治療そ して薬の開発」 講師：岩田仲生(藤田衛生大学教授)	154名
		西濃圏域		リーフレット(ハンドブック)作成	
	2013年 2月11日	中濃圏域	関市 わかくさプラザ 多目的ホール	DVD「ハートをつなごう、若者の心 の病：病気を正しく理解し、回復を 目指そう。」 講演会：「心の病とどう向き合うか」 ～よく聞いて良く話そう～ 講師：臼井潤一郎(地域支援センター 施設長)	145名
		東濃圏域		リーフレット(ハンドブック)作成	
	2013年 2月16日	飛騨圏域	こくふ交流センター さくらホール	映画上映「千鶴」上映 トークショー：赤坂正和監督	500名

イベントは、新聞(中日・岐阜新聞)に広告チラシを入れて、参加を呼びかけた。

8) 要望活動

①精神障害者保健福祉手帳

- 平成元(1989)年、精神障害の証明書発行。
- 平成5(1993)年、心身障害者対策基本法を改正して、障害者基本法を制定。

(身体・知的障がい者と共に、精神障がい者を法律の対象に加えた。)

すでに、身体障がい者には「身体障害者手帳」、知的障がい者には「療育手帳」が交付され、JR・バス・高速道路・航空運賃の割引、郵便料の減免、公営住宅入居等に利用されていた。

しかし、精神障がい者は、写真による本人と確認できる手帳がないことを理由に対象にならなかった。

精神障がい者には、所得税、住民税、公共住宅の優先入居に使う「障害の状況に関する証明書」だけで、福祉面で立ち遅れていた。このため、厚生省は身体・知的と同じように本人確認ができる写真貼付を計画。

しかし、偏見が強い中、写真貼付に家族会からの反発も懸念され、実現しなかった。

(平成6(1994)年6月20日付けの朝日・中日新聞からの引用)

- 平成7(1995)年7月1日施行の精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)により、「精神障害者保健福祉手帳」の創設、10月より申請受付、11月以降交付。
- 平成7(1995)年から「手帳」が交付されたが、メリットが少なく、取得者が少なかった。手帳のメリット拡大に向けて、200万人目標の請願署名と、JR各社への交渉が始まる。
- 平成11(1999)年5月、手帳サービス拡大に関する請願署名を国会へ。
署名数 全国：1,040,460筆、岐阜県：22,051筆
- 障害者自立支援法 平成18(2006)年4月1日施行：身体・知的・精神の3障害の同一の枠内での取り扱いとなる。(3障害一元化)

障がい者の手帳制度のなごれ

身体障がい者	昭和24(1949)年 身体障害者福祉法の制定 昭和26(1951)年 身体障害者手帳の交付
知的障がい者	昭和48(1973)年 療育手帳制度の創設 平成10(1998)年 用語の変更「精神薄弱」⇒「知的障害」
精神障がい者	平成元(1989)年 精神障害の証明書の発行 平成7(1995)年 精神保健福祉法の制定 精神障害者保健福祉手帳の創設(1～3級)

②交通運賃割引運動

平成元(1989)年、JR運賃割引要望書を提出し、平成9(1997)年にはJR6社へ運賃割引の全国一斉陳情を行っている。(身体・知的障がい者は手帳による割引が行われていた。)

近年では、平成27・28(2015・2016)年、国会請願署名100万筆運動を展開した。平成28(2016)年5月13日、全国から162名の家族会代表が参議院会館に参集し、約62万余筆の署名簿を提出した。

岐阜県からは約6,700筆の署名が集まり、副理事長(当時)の久保田・山田が参加した。しかし、国会会期切れで採択はされず、再度の取り組みが行われた。

各県議会からの国への意見書「公共交通機関の運賃割引制度の適用を求める意見書」を採択し提出、市町村議会からも意見書採択などが続けられた。岐阜県では、県議会の意見書採択は平成29(2017)年、市町村議会からの採択は平成30(2018)年で、岐阜市・各務原市、関市・高山市・大垣市・瑞穂市・郡上市から採択を頂いた。

令和元(2019)年6月26日に請願書が衆参両院の国土交通委員会で採択された。

採択後も、JR・大手私鉄の運賃割引は実現していない。引き続き交渉している現状。

全国的には、大手私鉄の西鉄が平成 29（2017）年 4 月 1 日、精神障がい者にも半額割引実現。
 日本航空グループ 平成 30（2018）年 10 月 4 日 半額割引実現
 全日空グループ 平成 31（2019）年 1 月 16 日 半額割引実現

○岐阜県下の交通乗車運賃の割引状況

●バス

路線バス：運賃半額導入は会社により異なり、平成 17～24（2005～2012）年の間で実施された。

岐阜バス：平成 24（2012）年 9 月 30 日から実施。

東濃鉄道：平成 17（2005）年 1 月 1 日、

北恵那鉄道：平成 18（2006）年 4 月 1 日、

濃飛バス：平成 21（2009）年 7 月 1 日。

高速バス：**濃飛バス** 高山・岐阜間 令和元（2019）年 12 月 1 日（岐阜から高山は前から実施）
 （2019 年 8 月 29 日、要望書提出と懇談会）

岐阜バスの名古屋高速関・美濃線及び岐阜高山線については、以前に導入されていた。

●鉄道

長良川鉄道 平成 23（2011）年 1 月 1 日 半額

明知鉄道 平成 26（2014）年 4 月 半額

樽見鉄道 令和元（2019）年 10 月 1 日 半額（2018 年、導入を電話で要請した。）

みんなねっと甲州・東海ブロックでは、連携交渉として 3 県（愛知・岐阜・三重）で、JR、名鉄、中日本高速道路株式会社に交渉・懇談をしている。

③医療費公費負担要求

岐阜県精神障害者家族会連合会（ぎふかれん）の設立趣意書昭和 49（1974）年に、1 番に医療費全額公費負担の完全実施の実現が記載されている。各家族会設立にも、医療費負担問題が大きく関与していた。

- ・昭和 42（1967）年「ぎふかれん」設立に先立ち、家族会の熱意が実り、国民年金加入者は、精神科費用の 10 割給付を町議会で可決し、白川町で実現した。（白川町やすらぎ会）。
- ・昭和 47（1972）年岐阜市の国民年金加入者は、精神科への受診の際、自己負担が 1 割に。岐阜市あけぼの会が中心になって実現した制度である。（昭和 62（1987）年ごろ、廃止）
- ・昭和 47（1972）年、関市では、酒井田東一（市議会議員ぎふかれん初代会長）が、医療費の自己負担 1.5 割を実現させた。

平成 18（2006）年 10 月からの「障害者自立支援法の移行」と同時に、

岐阜県では、精神障害者医療費助成 精神障害者福祉手帳 1・2 級の無料制度を実施。

当時の「ぎふかれん会長」は、精神障がい者の医療費負担の窮状を県議会へ陳情した。

岐阜県の重度心身障害者医療の流れ

実施年月日	対象者	所得制限	自己負担
昭和 48（1973）年 1 月 1 日	身体障害者手帳 1・2 級 知的障害者の一部	あり	医療費の 2 割負担

昭和 48 (1973) 年 7 月 1 日	身障手帳 1～3 級 療育手帳 B 1 以上	なし	無料
平成 18 (2006) 年 10 月 1 日	精神障害者保健福祉手帳 1・2 級 ・入院時食事の助成廃止 ・入院時生活費助成なし	一部あり	無料 (入院は一部負担あり)

手帳 3 級まで適用 (県以上の適用) 自治体 平成 31 (2019) 年 4 月 1 日現在

高山市	3 級まで適用 (市民税非課税世帯・償還制)
瑞浪市・恵那市・飛騨市・下呂市・白川町	3 級まで適用

④ 高校の保健体育教科書に記述

令和 2 (2020) 年から 40 年ぶりに、試行的に高校の教科書に精神疾患の記述復活。令和 4 (2022) 年から正式に高校の保健体育の教科書に掲載される。

9) 知的・身体障がい者団体等との連携

・岐阜県障害者社会推進協議会

障がい者の家族・支援者の各種団体の協議会で、それぞれの問題を出し合い検討し、国・県等へ要求を行っている。県の福祉関連の各部職員との話し合いや、県選出の国会議員との交流会を行っている。

なお、岐阜県障害者施策推進協議会に、県の障がい者福祉に関する意見を具申している。

・岐阜県障害者スポーツ協会

ぎふかれん理事長は、「岐阜県障害者スポーツ協会」の副理事長として、各種スポーツ行事（春のスポーツ大会・秋のスポーツ大会・長良川マラソンなど）に参画している。ブロック大会・全国大会なども開催されるが、精神障がい者が参加できる種目は、ソフトバレーのみで、近年卓球が追加されたが、参加は少ない。

・精神障がい者独自の運動会として、サイコリンピックが毎年秋に実施されている。

・岐阜県の障がい者用のスポーツ施設

岐阜市鷺山に、水泳・トレーニング施設「岐阜県福祉友愛プール」が平成 28 (2016) 年に出来た。

室内体育館「岐阜県福祉友愛アリーナ」が令和元 (2019) 年に出来た。

岐阜県は施設整備を進めている。障がい者であれば誰でも使用できる。

・岐阜県障がい者支援文化事業

岐阜県教育文化事業団は九つの文化活動を事業として助成している。その中の一つが障がい者支援事業であり、公演事業、展示事業を岐阜県障がい者芸術文化支援センターが中心になって実施。

障がい者が作り上げた作品を一般の人に評価してもらい、芸術作品として販売する機会を積極的に提供している。身体・知的・精神の 3 障がい者対象であるが、精神障がい者の参加は他障害と比べ少ないのが実態。当「ぎふかれん」からは、協力委員として参画している。

Ⅲ 世界・日本・岐阜県の精神保健福祉の動向

◎ 世界の流れ

年	事 項
昭和 27 (1952) 年	フランスで、クロルプロマジン（抗精神薬）開発される。
昭和 50 (1975) 年	国連「障害者の権利宣言」採択
昭和 51 (1976) 年	「国際障害者年」（1981）を定め、障がい者の「完全参加と平等」を目指す。
昭和 57 (1982) 年	「国連・障害者の十年」（1983～1992）を定め、各国での積極的な障がい者対策の推進を提唱
平成 18 (2006) 年 12月13日	国連総会で「 障害者権利条約 」が採択される “障害者は障害のない人と平等に生活できる権利がある”と謳われている。 日本は、平成 19 (2007) 年に条約署名し、福祉関連法案を整備した。 日本は、平成 26 (2014) 年 1 月 20 日、批准書を国連に寄託した。 令和 3 (2021) 年夏、国連の「障害者権利条約」の実施状況の審査が行われ、日本への勧告が採択される予定。

◎ 日本の流れ

年	事 項
明治 33 (1900) 年	「精神病者看護法」（私宅監置）制定。治安目的で看護義務者は家族。
大正 7 (1917) 年	呉秀三 らが、「精神病者私宅監置ノ実況及び其統計的觀察」を発表。
大正 8 (1919) 年	精神病院法交付（公立精神病院の設立が目的）公立精神病院の設置は進まず、公安に重点を置いた国家管理が進む。
昭和 25 (1950) 年	「精神衛生法」制定。 入院中心の施策、私宅監置の廃止、強制入院（措置入院、同意入院）の規定。
昭和 33 (1958) 年	精神科特例 （厚生事務次官通達による）が出る。（精神科特例：一般病院の入院患者に対し、医師数 1 / 3、看護師・准看護師 2 / 3 になる。定員の削減）
昭和 34 (1959) 年	国民年金法制定 障害者福祉年金 、昭和 39 年から支給。
昭和 40 (1965) 年	ライシャワー事件で一層精神病患者の病院への収容が進む。
昭和 40 (1965) 年	「精神衛生法一部改正」（措置入院の強化、入院患者の増加） （緊急措置入院制度新設、通院費公費負担制度新設） 全国精神障害者家族連合会（全家連） の結成
昭和 41 (1966) 年	都道府県に精神衛生センター設置
昭和 45 (1970) 年	朝日新聞に「ルポ精神病棟」連載 大きな話題となる。
昭和 50 (1975) 年	保健所で社会復帰相談指導事業（デイケア）の開始
昭和 58 (1983) 年	宇都宮精神病院事件発生
昭和 62 (1987) 年	「精神衛生法」を改正し「精神保健法」を制定。

	社会復帰の促進をはかる。任意入院制度新設、精神保健指定医を設置。
平成 5 (1993) 年	障害者基本法 厚生省は精神障害者保健福祉手帳を検討。 精神障がい者グループホーム制度化。
平成 7 (1995) 年	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律「精神保健福祉法」施行。 精神障害者保健福祉手帳制度の創設。 障害者施策推進本部「障害者週間」の設定、ノーマライゼーション7ヶ年戦略。 「精神衛生センター」から「精神保健福祉センター」に名称変更。
平成 11 (1999) 年	「精神保健福祉法」改正、市町村の役割、成年後見人制度、地域生活支援センター・ホームヘルプ・ショートステイ制度設置。
平成 12 (2000) 年	医療保護入院時の移送制度導入。
平成 13 (2001) 年	池田小学校事件
平成 14 (2002) 年	「精神保健福祉法」一部改正、保健所から市町村へ精神障がい者業務移管。 「 精神分裂病 」の病名が「 統合失調症 」と変更。
平成 17 (2005) 年	「障害者自立支援法」成立
平成 18 (2006) 年	自立支援医療法成立 (精神科外来1割負担 手帳1~3級)
平成 19 (2007) 年 4月	「全家連」破産・解散。42年間の歴史を閉じた。
平成 19 (2007) 年 11月	「 全国精神保健福祉社会連合会 (みんなねっと) 」設立。
平成 23 (2011) 年	「障害者基本法」改正、「障害者虐待防止法」制定。
平成 25 (2013) 年	障害者自立支援法を改正し、「障害者総合支援法」が成立。 「精神保健福祉法」一部改正。保護者制度の廃止。医療保護入院は精神保健指定医の診断と家族等の承認が必要。
平成 26 (2014) 年	国連の「障害者権利条約」 を日本が批准 (国連事務局の承認を受ける)。 日本は141番目の締結国となる。 「精神障害者にも対応した地域包括システム」構築に向けた基本方針を障害福祉計画に取り入れる。

◎ 岐阜県の流れ

年	事 項
昭和 41 (1966) 年	岐阜県精神衛生センターが岐阜県総合庁舎に設置される。 平成 4 年 (1992) 「国連・障害者の 10 年」最終年記念「ヒューマン・フェスティバル岐阜 '92」を開催
平成 18 (2006) 年	精神障害者保健福祉手帳 1、2級の精神障がい者は、申請により、医療費 全額無料 になる。精神障害者にも 重度心身障害者等医療費助成制度 が適用される。

	(いまだに無料ではない県が多い。各市町村で制度が異なる。)
平成 24 (2012) 年	精神障害者の地域移行が始まる。 「精神移行ピアサポート事業」開始。2保健所実施。 地域移行支援、地域定着
平成 28 (2016) 年	「障がいのある人もない人も共に生きる清流の国づくり」条例を制定。
平成 30～令和 2 年 (2018～2020 年)	岐阜市に「ぎふ清流福祉エリア」を整備。 (障がい者用のアリーナ、プール、障がい者総合就労支援センターなどを整備。)

IV：家族会紹介

◎「ぎふかれん」加入の地域家族会の紹介 (11 家族会)

・岐阜圏域

岐阜市あけぼの会

かけはし西岐阜 (NPO 法人ぎふ脳外傷友の会 長良川)

たんぽぽの会

・西濃圏域

いぶき会

ハウス希望家族会

いこい会

・中濃圏域

中濃わかば会

郡上つくし会

・東濃圏域

東濃さつき会

東濃やまなみ会

・飛騨圏域

青葉の会

◎元「ぎふかれん」加入の家族会など

可茂地区家族会

◎「ぎふかれん」を退会・解散した家族会

コスモス会・岐阜精神病院家族会

慈恵中央病院家族会・可茂地域家族会・白川町やすらぎ会・美濃加茂病院家族会

れんげ家族会・下呂しらさぎ・友和会・須田病院家族会

岐阜市あけぼの会

昭和 46 (1971) 年 9月 16日	「岐阜病院家族会」が“岐阜市の患者家族の集い”を開催。 出席者 41 名、岐阜市南保健所にて。
昭和 46 (1971) 年 12月 2日	“集い”開催。出席者 85 人、年会費 500 円 会の名前：「あけぼの会」、代表：岩田正一氏を決める。 (映画・講演・懇談会、請願・陳情を行う)
昭和 47 (1972) 年 3月 22日	「あけぼの会」(講演・懇談会) 出席者 80 人
昭和 47 (1972) 年 7月 20日	「あけぼの会」(講演・懇談会) 出席者 78 人 あけぼの会会則を決定(岐阜市役所 大会議室にて)
昭和 49 (1974) 年 9月 13日	岐阜県精神障害者家族会連合会(ぎふかれん)結成大会に参加
昭和 58 (1983) 年 6月 1日	「長良共同作業所」の開設 入所者：11 人 場所：岐阜県福祉農業会館内 3階 精神衛生センター隣接
昭和 59 (1984) 年 2月 19日	「あけぼの会日曜会」(当事者会)開催 1 回/2 か月 会場：岐阜市中央公民館 2F
昭和 63 (1988) 年 8月 1日	家族会が「岐阜市あけぼの苑」(小規模作業所)を岐阜市の補助により開設
平成元 (1989) 年 11月 1日	「岐阜市第 2 あけぼの苑」を岐阜市の補助により開設。
平成 5 (1993) 年	琴塚の「岐阜市あけぼの苑」が、芥見に移る
平成 5 (1993) 年	グループホーム「ホームラミー」を芥見の作業所に併設する
平成 14 (2002) 年 3月	「第 3 あけぼの苑」を折立に開設。
平成 16 (2004) 年 8月	3 力所の作業所は「NPO 法人あけぼの会」の運営となり、鶴飼武彦氏が、理事長に就任。 「岐阜市あけぼの会」は家族会活動だけになった。
平成 18 (2006) 年	精神障害者保健福祉手帳 1・2 級 医療費無料に
平成 21 (2009) 年	当事者会がはじまる。
平成 22 (2010) 年	「楽しくクラブ」(当事者会)設立。会則を決める。
平成 24 (2012) 年	岐阜バス運賃が半額となる。(運動の成果)

会長：熊谷 久子(例会の様子は「思い出」参照)

住所(会長宅)：岐阜市花沢町 1-17 電話番号：090-6578-9838

会員数：95 名

支え合い・学習・運動の 3 本柱の活動

例会を毎月開催し、講演会、交流会、相談会などを実施。講演会：3 回ぐらい/年

当事者会「楽しくクラブ」

会長：石田吉保

毎月第 4 日曜日、日光コミュニティーセンターにて 開催

当事者が 5~15 名参加して、おしゃべり。

家族・支援者が参加することも有るが、当事者が主役。

平成31年（令和元年）度 岐阜市あけぼの会事業報告

開催日	場 所	内 容	参加人数
4月25日(木)	南市民健康センター 3階会議室	平成31年度総会と講演会 「統合失調症と発達障害について～家族の 対応の仕方～」 講師：栗林英彦先生（精 神科医）	68名 (初参加20名) (支援者6名)
5月14日(火)	南市民健康センター 3階会議室	5月例会 交流・相談会	25名 (初参加1名)
6月15日(土)	岐阜市民会館 2階多目的ルームA	6月例会 グループ別 交流・相談会	28名 (初参加1名)
7月9日(火)	南市民健康センター 3階会議室	7月例会 「親亡き後の学習会」講師:くらし ケア・直野氏(住宅相談)永井氏(訪問看護)	31名 (初参加1名)
7月14日(日)	大野町総合市民センター 「ぎふかれん」主催	第34回「知ってもらいたい心の病」「精神 障がい者の障害とは？」講師：河村真志	8名（全参加者 131名）
8月18日(日)	メディアコスモス かんがえるスタジオ	8月例会 講演会「居場所・当事者会につ いて」窪田さん・亀沖さん（愛知県）	59名 (初参加25名)
9月10日(火)	南市民健康センター 3階会議室	9月例会 保健所パンフレット「Take it easy」の学習会 小川氏（地域保健課）	26名 (初参加3名)
10月6日(日)	美濃市中央公民館 「ぎふかれん」主催	第35回「知ってもらいたい心の病」「障が い者差別解消法と特別支援教育について」 講師：池谷尚剛 教授（岐阜大学）	5名 (全参加者40名)
10月13日 (日)	メディアコスモス かんがえるスタジオ	10月例会 講演会「精神科における作業療 法とは」講師：緒方氏（ケアピット看護師）	27名
11月7・8日	愛知県刈谷市 「みんなねっと」主催	全国精神保健福祉家族大会 in 愛知 「みんなねっと全国大会」	18名 全国1800名
12月10日(火)	南市民健康センター 3階会議室	12月例会 グループ別交流会 グループホームの案内など	39名 (初参加4名)
1月13日 (月・祝)	メディアコスモス かんがえるスタジオ	1月例会 新春講演会「親亡き後に備えて」 講師：堀場洋二氏（名家連相談員）	84名 (会員外40名)
2月1日(土)	メディアコスモス みんなのホール 「ぎふかれん」主催	岐阜県精神保健福祉研修会 「精神障がい者地域でいきいき暮らせるた めに」講師：青木聖久 教授（日本福祉大学）	31名 (全参加者102 名)
2月15日(土)	メディアコスモス おどるスタジオ	2月例会 ミニ講演会と対話カフェ 「親なき後問題について」 廣田氏（当事者）・石川教授（県立看護大学）	32名 (会員外5名) (支援者5名)
3月10日	南市民健康センター	3月例会 （新型コロナのため、中止）	

たんぽぽの会

たんぽぽの会は、平成3年に発足し、精神障がい者本人と主にその親たちの会です。市の障害者団体に加入したのは、平成15年です。

全国的には、「全国精神保健福祉会（みんなねっと）」があり、私たちの会は、「岐阜県精神保健福祉会（ぎふかれん）」の支部として存在しています。

精神疾患に対する無知、誤解、偏見などにより多くの方々が、日常生活や社会生活に支障を有しています。現在、精神医療が入院治療から在宅中心の医療へと変わってきています。精神の障がいを持っていても地域で安心して暮らせるようになることを願って活動しています。毎月の第二火曜日に例会を開催し、懇談会、学習会、施設見学、研修会への参加、親睦会等を実施しています。

「たんぽぽの会」の主な活動

●学習会

講師を招いての学習会

- ・各務原市の福祉制度について
- ・就労支援事業について
- ・成年後見制度について
- ・認知行動療法について
- ・社会福祉協議会の活動について
- ・「私のリカバリーストーリー」等

資料に基づいての学習会

- ・漫画家 中村 ゆき「我家の母は病気です」
- ・精神科医 夏苺 郁子「心病む母が遺してくれたもの」

●研修会参加

国の動向、県や他市の取り組みなどの情報を得る。精神科医の講演により病気の正しい知識や最新の治療について知る。

- ・「知ってもらいたい心の病」 体験発表、講演「いま私にもできること」
- ・精神保健福祉研修会
講演「精神症状が不安定になったときの受け止め方親子の付き合い方」
- ・こころの健康フェスティバル
特別講演「統合失調がやってきた」 講師：松本 ハウス
- ・甲州・東海ブロック家族会 精神保健福祉促進研修会愛知大会
精神の障がいを持っていても地域で安心して暮らしたい
～地域生活をささえる医療、アウトリーチ、そして当事者の力～

●施設見学

- ・クラブハウスゆうせん
- ・地域活動センターふらっと 等

●親睦会

当事者や家族が自分らしさと元気を取り戻すために野外活動、クリスマス会を実施。

●懇談会

おしゃべり感覚で互いの悩みを語り合い、それぞれの経験をもとに効果のあった日常の工夫などを紹介し合う。

「たんぽぽの会」についてもっと知りたい方は

精神疾患を患っている当事者は自立した暮らしを今生活している地域で自分らしく生きて行きたいと願っています。一人ひとりには小さな力でも皆が集まって大きな力にして願いを実現したいと考えています。同じ悩み、同じ不安を抱えている方一人で悩まず気軽にご相談ください。お待ちしております。

平成31年度（令和元年）事業報告

月日	事業名	場所	内 容
4月9日	たんぽぽの会総会	総合福祉会館	30年度 事業報告・会計報告 31年度 事業計画
5月14日	野外活動	かかみがはら 航空宇宙博物館	航空宇宙博物館に行き、多くの人々の夢と挑戦の軌跡を知ることが出来た。旅客機シュミレーターでパイロットを体験、リフレッシュでき会員相互の親睦を深めた。
6月11日	懇談会	総合福祉会館 会議室2	会員の近況報告・支援のあり方を考え意見交換をした。
7月11日	学習会	総合福祉会館 会議室2	グループワークについて 講師：長縄 理恵子氏 「期日、実施内容、場所、申込方法等について」
7月14日	「知ってもらいたい心の病」	揖斐郡大野町 町民センター	「精神障がい者の障害とは、関わり方とその理解について」講師：河村真志（臨床心理士）
9月10日	懇談会	総合福祉会館 会議室2	会員の近況報告・支援のあり方を考え意見交換をした。
10月11日	懇談会	総合福祉会館 会議室2	会員の近況報告・支援のあり方を考え意見交換をした。
11月7日 11月8日	全国精神保健福祉家族会みんなねっと愛知大会	刈谷市 総合文化センター	講演：「社会で暮らす当事者のために精神医学は何ができるのか」尾崎紀夫教授、分科会①～⑤ 記念講演「ベルギーにおける地域移行について」
11月20日	各務原市社会福祉大会	各務原市市民会館	記念講演 講師：義足のダンサー 大前光市氏
12月13日	クリスマス会	総合福祉会館 会議室2	ビンゴゲーム、プレゼント交換、会食等で親睦を図る。令和2年度の役員を決める。
令和2年 1月24日	合同学習会	総合福祉会館	講和「当事者と家族のための認知行動療法について」講師：橋本哲也（岐阜病院 臨床心理士） 認知行動療法の実際、家族が活用するためのコツ
1月18日	映画上映会	あすかホール	東日本大震災障害者の状況と支援者の活動を描く映画
2月1日	岐阜県精神保健研修会	ぎふメディア コスモス	講演：「精神障害者が地域でいきいき暮らせるために～誰もが自らの人生の主人公～」 講師：青木 聖久氏（日本福祉大学）
2月18日	懇談会	総合福祉会館	会員の近況報告、支援の方法を考える。
3月10日	次年度計画	総合福祉会館	来年度の計画について話し合う。
3月15日	新境川清掃奉仕	市民公園	新境川堤一帯・市民公園内の掃除

NPO法人ぎふ脳外傷友の会 長良川

理事長：久保敏雄 〒 500-8381 岐阜市市橋 3 丁目 11-18

事務局：就労継続支援B型事業所かけはし西岐阜 TEL：058-277-6113

歴代理事長：西村憲一、久保敏雄

沿革：交通事故などの外傷性脳損傷による後遺症に悩む当事者、家族でつくる脳外傷友の会「みずほ」が平成9年（1997）に名古屋市に開設された。

平成13（2001年6月）年、岐阜県在住の脳損傷の家族による第1回の家族会を福祉農業会館で開催。同9月に脳外傷友の会みずほ「ぎふ支部」を設立。

平成16（2004）年に公的支援を受けた小規模作業所「かけはし西岐阜」を運営する。その後、平成18年（2006年3月）「ぎふ脳外傷友の会友の会 長良川」をNPO法人化、作業所「かけはし西岐阜」は障害者総合支援法の就労継続支援B型事業所として、平成21年（2009）4月に再スタートした。当初は外傷性脳損傷に特化した作業所であったが、自立支援法により、精神障害者もわずかではあるが受け入れている。

家族会活動

「高次脳機能障害フォーラム」などでの勉強会や、イチゴ狩り、バス旅行、クリスマス会などの行事を行っている。

令和2年度の活動

年月日	曜	内 容	場 所	主催等	参加者
令和2年 5月24日	日	令和2年度 通常総会	かけはし西岐 阜	NPO 長良川	当事者・家族
令和2年 7月17日	金	全国コーディネーターWEB 会議	中部医療セ ンター		職員
令和2年 7月28日	火	新型コロナウイルス感染症 対策フォーラム	清流文化プ ラザ		職員
令和2年 8月1日	土	家族会 「障害年金につい て、研修会」	市橋コミュ ニティーセ ンター	NPO 長良川	会員・家族他 理事
令和2年 9月9日	水	家族会役員会			家族会役員
令和2年 9月9日	水	圏域コーディネータ会議	障がい者総 合相談セン ター	精神保健福 祉センター	職員

令和2年 9月19日	土	かけはし西岐阜利用者 野外活動	梨狩り 航 空博物館	かけはし西 岐阜	利用者・職員
令和2年 10月24日	土	家族会「軽スポーツ大会」	「ぎふかれん 誌」第2号	NPO 長良川	会員・家族他 職員
令和2年 12月7日	月	圏域コーディネータ会議	障がい者総 合相談セン ター	精神保健福 祉センター	職員
令和2年 12月4日	月	「長良川」広報部会	かけはし西岐 阜	NPO 長良川	広報部会理 事
令和2年 12月20日	日	親睦交流会クリスマス会	市橋コミュ ニティーセ ンター	NPO 長良川	会員・家族・ 当事者・支援 者
令和2年 12月28日	月	令和2年度反省研修会	はまゆう	かけはし西岐 阜	利用者・家 族・職員
令和3年 1月20日	水	「長良川」広報部会	かけはし西岐 阜	NPO 長良川	広報部会理 事
令和3年 2月26日	金	第2回支援コーディネータ ー会議	Zoom	国立リハビリ テーションセ ンター	職員
令和3年 2月27日	土	小林春彦全国行脚講演会	ハートフルス クエア-G-	小林春彦全国 行脚講演会実 行委員会 NPO 長良川	会員・家族・ 当事者・支援 者

この他に4回の理事会を開催。

NPO 法人 西濃地域精神障がい者家族会いぶき会 いぶき作業所

理事長 三輪敏勝

〒503-0022 大垣市中野町5丁目 131-1

TEL/FAX 0584-74-8980

歴代理事長：猪本和子・林 時彦・早崎淳二・北嶋和子・磯野直子・三輪敏勝

1980年代全国的な精神障害者家族会設立の風が西濃地方にも吹き、昭和62年春、大垣保健所の広い呼びかけで、[地域障害者の家族会発起人会設立、] 紆余曲折・一年後の63年1月11日（大垣市 養老・不破・安八・海津郡等）の西濃地方から集った15人で役員を置かず運営委員からの【西濃地域精神障害者家族会いぶき会】の設立スタートでした。

会員さんからの要望で、約束事を決めながら、年5回程度の定例家族会を決め、保健所さん地域の先生も含めた精神病院、ワーカーさんの方達の参加協力を得て各地の病院・保健センター等の会場で家族が抱える苦悩などが話せる、勉強にもなる家族会が出来ました。

平成2年秋、会員から障がい者の働ける仕事場が欲しいとの熱い願いあり、【いぶき作業所】の設立がジョン・ボーマン牧師（大垣ルーテル教会・社会福祉法人あゆみの家の設立者・所在地垂井市）の好意により橋爪村の西、小高い山の裾野に15坪のプレハブの働く場が出来、大垣の家族会にも声をかけ、【いぶき共同作業所】（あゆみの本部から南へ500m 現在・2Fのグループホーム）が出来ました。

ぎふかれん誌によると、感謝と喜びの涙を流しつつ、窓ガラスをなでる様に拭いておられた老夫婦の様子は心に焼き付いて残っていますと投稿がされています。ボーマンご夫婦・大垣保健所・西濃の会員さん達のご尽力で出来ました。

一緒に仕事をしよう！社会生活に参加しよう！この地で頑張ろう！そんな思いを感じます。平成10年・いぶき共同作業所は近鉄線北大垣駅に近い町、笠縫に移転します。橋爪に残った養老の家族は【ハウス希望】として継続。平成19年金屋村（名神高速沿い）に移りB型新事業所として活動をしています。

笠縫町は交通至便ですが振興住宅街で環境的に合いませんでした、静かな田園住宅に有る木工所さんの優しいご理解で、敷地内の一軒家での再スタートです。作業所・事務所・休憩室が有り広いとは言えませんが、玄関前は軽自動車が駐車できるスペースが有り、恒例バーベキュー・花火大会をしました。隔月開催の家族会も作業所で近年まで開催していました。

平成18年・障害者総合支援法が施行され大垣いぶき会はNPO法人を取得し・障害者自立支援法の『就労継続支援B型事業所』となりました。障がい者福祉サービスを持つ『NPO法人西濃地域精神障がい者家族会 いぶき会』の設立と成ります。

通所者の増加で障がいの症状が多様化し、作業室や休憩室などが手狭な為、今よりも広く、快適に利用して頂けるよう、後世に残るいぶき会作業所が平成28年春吉日に完成しました。住宅街の路地奥で広い駐車場が作れたので近隣住民の方にも一部を利用して頂いています。

環境的には恵まれています。奇数月の定例会は悩み事などを話し合う家族の懇談会ですが、年に一度精神の嘱託医師も入り先生との相談会、そして DVD 等で勉強会も有ります。会が終わっても気候が良いと、会員が駐車場で立ち話をして帰られます。

ぎふかれんの研修会・講演会などは市の福祉バスを利用して参加します。

大垣家族会いぶき会は作業所を運営しています。B 型作業所なので目標工賃達成指導員が就き、管理者、生活支援者を含め4名・登録通所者（メンバー）14 名です。80・50 問題などを家族会同様に抱えていて、日々のメンバーも4・5人程度です。月々の生産・賃金は全員の努力で上がっています。隔月の嘱託医師を交えた話し合いと催事等を取り入れています。

事務局は作業所にあり、定例会・ぎふかれん等の行事の広報連絡・福祉バスの手配などは作業所スタッフの協力をいただいています。

コロナ禍に負けない感染予防を万全にして、大垣家族会いぶき会は会員と作業所スタッフとの意思疎通を密にして活動していきます。

NPO 法人 ハウス希望

昭和の終る頃から、各地で家族会が立ち上がりました。

養老山脈が有るこの村にも、昭和 63 年西濃地域家族会が設立されました。家族会が大きな母体となり大垣保健所等々ご協力を頂き、平成 2 年、念願の【いぶき共同作業所】が完成しました。家族と一緒に障がい者が働ける場所が養老町に出来ました。関係者の声として、仕事も大切、工賃も必要、それ以上に人と共に生きる心の問題こそ大切です。個性豊かに生きる事が共有され、一人一人が大切な存在になる取り組みをしてきました。

平成 10 年、「大垣いぶき会作業所」が大垣に移り、残った私達は新しい気持ちで、【ハウス希望】と命名し、この作業所で頑張ることになりました。

遅れている「精神保健福祉法」も、平成 18 年ようやく三障害同レベルの補助が受けられる「障害者自立支援法」が施行されました。ハウス希望家族会はそれを踏まえて、名神高速養老サービスエリアの北東沿いの金屋村に、新作業所立ち上げの為一年有余、努力しました。地域に馴染めるように、そして働きやすい環境作りに、地域の自治会や保健所等の役所のご理解と協力を得る為に十分な時間をかけ、職員募集も地域で行いました。

資金は家族からの寄付や借入で賄い約 8 割を確保し、平成 18 年 8 月に NPO 法人の認可、同 10 月には従来の場所から移転し、少ないスタッフでこぎ着けました、翌 19 年の 7 月に就労継続事業 B 型の指定を受け、現在利用者は 25 名程で指導員は非常勤を含め 6 名です。

隔月の第 2 土曜日に家族会を開催し、色々な悩みや苦勞話しをします。

家族会から生活の場所としてグループホーム（GH）設立の厚い要望が出されました。小資金で立ち上げる為に、地域の空き家の利用を考え、縫製組合の研修生寮を譲り受け、全面改装し、平成 27 年 12 月 1 日認可指定を受けて『ハウス希望島田グループホーム』を立ち上げました。

入居者の条件として、金屋事業所に毎日通う事が前提とし、お金の管理や社会的生活ができることです。親亡き後でも生活に困らないよう、年金と工賃で家賃・生活費・預金に充てられる事ができることを目標に、生活訓練の場として運営しています。現在 3 名利用しています。

令和 2 年に、2 階を 4 室増床し、8 名入所可能になりました。

部屋は各自個室になっています。GH は朝・夕の食事の提供があり、土・日はスタッフが休みなので各自自炊になります。食堂兼談話室は広く、定期的に料理教室などを開いています。共同生活する為の規則はありますが、どれも普通に生活するうえで当たり前のことをグループホームで教えています。

社会生活が苦手で、あまり外に出ない方が多いです。

ハウス希望では、家族会・金屋事業所・グループホームで、外に出て、地域清掃・スポーツ・研修旅行など社会参加する事が最大のリカバリーだと思っています。

特定非営利活動法人 就労継続支援 B 型	ハウス希望 家族会 (金屋事業所内) ハウス希望金屋事業所 所在地 〒503-1339 岐阜県養老郡養老町金屋79番地2 TEL/FAX 0584-32-0088
共同生活援助	ハウス希望島田グループホーム 所在地 〒503-1314 岐阜県養老郡養老町高田字栗下4321番地 TEL/FAX 0584-71-5081 理事長 久保田正司

いこい会

いこい会 会長：安藤勝子
住所：〒503-2416 揖斐郡池田町萩原 113
TEL：0585-45-5071

沿革

揖斐郡と本巣郡にまたがる広域な地区に、大野保健所の指導で平成4年8月から「懇談会」を催し、3年後の平成7年8月に「設立総会」を開催して「いこい会」が発足しました。

会員数

設立当初は不明だが、平成21年は26名、令和2年は14名です。

歴代会長

石井敏郎、安藤勝子、吉村とみ、安藤勝子

家族会活動

当初頃より会員の住宅の一部を借用、そこをサロンとし、隔月に茶話会等を実施した。しばらくして毎月に変更した。近年は下記のとおり。

定例会： 毎月第3水曜日 公共施設（池田町、北方町を交互）

茶話会： 奇数月の第1月曜日 地域の喫茶店 8名ほど

講演・研修会： 全国大会、県大会、「ぎふかれん」の各種行事に参加

学習会： 病気の知識、理解、服薬、対応の仕方など

福祉施設見学： 平成18年 どんぐり村福祉工場

平成19年 ザールせいすい「ひきえ事業所」

平成20年 クラブハウス「ゆうせん」

平成21年 ハウス希望金屋事務所

交流会：平成18年前後、みかん狩り、バーベキュー昼食会、クリスマス会等

近年について、花見、ゆり園、忘年会等

令和元年に本巣の趣のある場所での忘年会は、大変のんびりゆったりと過ごすことが出来、14名の参加でしたが楽しい思い出になりました。

総会で年間計画を作成し活動してきました。

令和2年度はコロナ禍のため、「書面による総会」になりました。定例会は中止になりましたが、茶話会は3密を避け実施しています。令和2年度末で緊急事態宣言が延長されましたが、早く収束することを願います。

さて、設立から早25年周年になります。基本は、話し合い、支え合い、学び合いです。悩みを安心して言える場所です。又、色々と聞くことにより、柔軟性を持ち理解が出来るようになります。

会員の高齢化が進んでいますが、無理をせず気楽に話し合い、気楽に進めていきましょう！

中濃わかば会

会長：田中 利正 〒501-3944 関市山田 1139-19 TEL：090-1284-7882

事務局：NPO法人チームわかば内

〒501-3884 関市孫六町 13（令和 4 年度からは変更）

会 員：20 名（家族・当事者・支援者を含む）

沿革：昭和 50 年代半ば、関保健所主催の精神障害者家族懇談会が年 3～4 回開催され、この懇談会に参加していた家族から家族会結成への機運が高まり、関保健所管内の関市、美濃市始め 5ヶ町村を基盤として関保健所の指導を受け、昭和 58 年 3 月中濃地区精神障害者家族会として発足（結成大会：14 名参加）。第 1 回総会は同年 6 月 19 日、参加。ぎふかれん誌創刊号（昭和 60 年 2 月）時点では「ぎふかれん」に加入していました。その後名称を「中濃地区わかば会家族会」を経て「中濃わかば会」と改称現在に至っている。

会員数：設立当初（昭和 60 年代）は、会員 70 名位であったが、平成 9 年時には 40 名位、平成 19 年に 25 名、以降徐々に少なくなり令和 2 年に 20 名程度（支援者も含め）となっている。

家族会歴代会長： 平野豊一、武藤定助、成戸徳一、長屋 薫、山田偉雄、田中利正

作業所を設立：平成 2 年 4 月、所管の関保健所の指導により、小規模作業所：「わかば共同作業所」を関市川間町に開設、平成 11 年 5 月、平和通 7 丁目 6 に移転。障がい者支援法の施行に伴い、平成 20 年 2 月 3 日の臨時総会で法人化を決議する。作業所名を「特定非営利法人チームわかば」と改称し、地域活動支援センターとする。その後、平成 24 年 6 月 1 日、現在の孫六町 13 に移転、現在に至る。

作業所は小塩所長・岩井主任指導員を含め 4 名のスタッフで運営されている。

通所者は、平成 9 年ころには 18 名程度で、一時は「ボカシ」や「石鹸」、「木工製品」等自主生産の割合がほとんどであったが、現在の作業所では、作業スペースが取れなくて、安全カミソリの組み立て等内職的な仕事となっている。

作業所の方針：地域活動支援センターとして、居場所としての作業所、参加し易い作業所、A・B 型作業所や一般事業所への転出訓練のための作業所を目指している。

社会見学や誕生会、四季折々の行事、地域の方とのふれあい会、ゴミ拾い等ボランティア活動、わかば農園でのサトイモ、サツマイモ、玉ねぎなどの栽培。

なお、中濃わかば会とは別組織としている。中濃わかば会の例会等はチームわかば事務所でやってきた。

現在の通所者は、高齢者を中心に 5 名程度で作業所自体の継続が難しくなっており、近隣に B 型・A 型作業所が設置されるようになったことから、当作業所の閉鎖を検討している。

ここ数年の家族会活動：

定例会：(火曜サロン→わかばサロンに、原則毎月第3土曜日開催)

情報交換、勉強会、新規会員へのアドバイスなど。

行事：各種研修・講演会(「ぎふかれん」、社協、保健所、その他団体主催)の参加、「ぎふかれん」の各種行事・事業の協力、NPO法人チームわかばのイベント参加、総会時の研修・講演会、年末・年始等の懇親会(昼食会や温泉地に出かけ懇談)など。定例会には、現在7～9名程の出席。

機関誌：「わかば通信」を平成21年より発行、原則毎月1回。

ここ数年は、中濃わかば会とNPOチームわかばで共同発刊。月末に印刷発送する。

今後の方針：会員間の意思疎通をはかり、楽しい家族会を、また、賛同者を含め会員増を図る。市や県へ要求できる家族会。研修会・講演会による勉強会。

年間行事について、平成29年度を参考に示す。

平成29年度の行事等

年月日	事業内容	活動場所
平成29年 4月8日(土)	わかばサロン 10名参加 DVD鑑賞：「オープンダイアログ(開かれた対話)」	チームわかば2F
5月31日(土)	チームわかば・中濃わかば会総会 午後 DVD鑑賞：「レナードの朝」	チームわかば
5月31日(水)	講演会：うつ病のリワーク 精神保健福祉協会主催	県立図書館
6月17日(土)	わかばサロン 出席5名 会員間の情報交換他	チームわかば
6月24日(土)	講演会：親亡き後(中谷医師)くらしケア主催	県ふれあいセンター
7月17日(月)	NHK名古屋フォーラム：統合失調症を生きる	ウイン愛知
7月29日(土)	講演会：「知ってもらいたい心の病」	揖斐川町はなもも 会館
8月19日(土)	わかばサロン 出席6名	チームわかば
9月8日(金)	家族教室 講演会：訪問看護(統合失調症と付き合いながらの生活) 関保健所主催	関市保健センター
9月9日(土)	講演会：障がい者差別解消法及び虐待禁止法と その実態 県主催	県精神保健福祉センター
9月15日(土)	わかばサロン 出席10名	チームわかば
10月13日(金)	岐阜県精神保健福祉会研修会(県大会)	中津川東美濃センター
11月8日(水)	心の健康フェスティバル 講演会	岐阜清流プラザ

11月9・10日 (木・金)	甲州・東海ブロック精神保健福祉会研修会 in 甲府	山梨県河口湖町
11月18日 (土)	わかばサロン 出席6名	チームわかば
12月16日(土)	わかばサロン 出席7名(ゲスト:熊谷久子氏)	チームわかば
12月22日(金)	チームわかばの地域との交流会 参加	チームわかば
12月24日(日)	ハートフルネスステージ 県主催	岐阜清流プラザ
平成30年 1月15日(土)	わかばサロン 出席11名	チームわかば
2月17日(土)	講演会:「知ってもらいたい心の病」 講師:中谷医師	岐阜県精神保健福祉センター
3月17日(土)	わかばサロン 出席11名	チームわかば
3月25日(日)	チームわかば・中濃わかばの現状と問題点 福祉ビデオ鑑賞会、懇親会 出席12名	チームわかば 丸美寿司
5月19日(土)	30年度中濃わかば会総会・研修会	チームわかば

○平成30年度の行事で最も盛り上がったのは、甲州・東海ブロック大会 高山大会であった。わかばサロンを毎月第3土曜日に開催し、会員間の情報交換、ぎふかれん・みんなネット、県などの情報提供、また、福祉関連のDVD鑑賞を行う。総会日には、研修会:「ピアサポーターとしての障がい者支援活動体験」話題提供を藤田芳政・金子武彦氏(ピアサポーターグループすまいる代表・副代表)に依頼。例年、総会の午後には保健所、市役所の福祉担当者などに話題提供を頂いた。

関市へJR運賃割引などの国への意見書採択を関市の市議員に依頼、その採択決議の市議会を傍聴。その他、ぎふかれん、各種団体、関保健所、県主催の講演会・イベント等に参加。

懇親を兼ねたわかばサロンを郡上市美並の子宝温泉で、令和元年には上之保温泉で実施。例年、市内での会食懇親会を行っている。

○令和元年 みんなねっと愛知大会参加はできる限り多くの参加を呼びかけた。美濃市の中央公民館での「知ってもらいたい心の病」実施については、家族会員やチームわかばの応援があった。

わかばサロン、各種講演会・イベント等の情報提供と参加を例年のように実施している。

○令和2年 新型コロナウイルスの関係で、講演会・イベントの自粛が続いたが、出来る限り三密を避け、わかばサロンを開催した。

郡上つくし会家族会

第1 設立の経緯

(1) 平成4年4月

精神障害者家族が山下信幸氏を中心に「郡上つくし会家族会」を結成する。

(2) 平成14年4月

家族会会長山腰敏氏と役員が郡上郡内七ヶ村（八幡町・白鳥町・八町町・和良村・高鷲村・明方村・美並村）役場を回り、その支援の基に協力を得て、「安心でき、楽しい、敷居の低い居場所」として町内の空き家を借り受け精神障害者小規模作業所「フレンドシップつくしの家」を設立する

(3) 平成16年3月

郡上郡内七ヶ村が合併して「郡上市」となる。

(4) 平成18年4月

障害者自立支援法が施行された事により、家族会単独では法人化が困難なため郡上市社会福祉協議会に運営をお願いする。

(5) 平成19年1月

当時の施設の借り受け3年の契約期限が過ぎる為、家族会が中心となり新たに施設を探していたところ、当時使用されていなかった岐阜県所有の砂防事務所の建物を郡上市が買い取り施設を改築し郡上つくし会に貸与する。

(6) 平成20年4月

郡上市社会福祉協議会が運営の母体となり、就労継続支援B型の個別給付事業所「フレンドシップつくしの家」として活動開始する

(7) 平成22年4月

運営母体NPO法人コミシス郡上が設立されたことから郡上市社会福祉協議会からNPO法人コミシス郡上に変更になる。

(8) 平成25年6月

当初、家族会が設立した「フレンドシップつくしの家」の趣旨から、営利目的化、また職員中心とした作業所へと変わりつつあることから会長の牧野正義氏が中心となり、運営母体をNPO法人コミシス郡上から家族会へ移行する。

平成26年6月 「特定非営利活動法人郡上つくし会」として定款を定め「フレンドシップつくしの家」を継続し現在に至る。

第2 家族会会長歴

初代 （平成4年度） 山下信幸氏

2代 （平成13年度） 山越 敏氏

3代 （平成16年度） 牧野正義氏

- 4代（平成25年度） 青木吉男氏
5代（平成30年度） 谷口昇三氏
6代（令和2年度） 臼田浄圓氏

第3 家族会構成

会員数 11名

第4 行事（活動歴）

- ◎ 毎月第一木曜日開催の家族連絡会
- ◎ 年次総会の開催
- ◎ フレンドシップつくしの家の諸行事への参加と支援
- ◎ 各種研修会への参加
- ◎ 県家連の会議などへ出席

第5 その他

施設の概要

(1) 名称

特定非営利活動法人郡上つくし会 フレンドシップつくしの家

(2) 種別

就労継続支援B型

(3) 所在地

郡上市大和町剣61番地1
0575-88-4910

(4) 利用定員

20名

(5) 利用者

郡上市内居住の精神障害者

(6) 利用日・利用時刻

月曜日から金曜日まで（休所日 土曜日・日曜日及び年末年始）
午前9時から午後3時30分まで

(7) スタッフ

常勤4名 非常勤6名

NPO法人東濃さつき会

家 族 会	事 業 所
<p>*NPO法人東濃さつき会 理事長 江崎 道春 〒507-0068 多治見市大藪町 849 番地 1 TEL : 0572-27-3744 FAX : 0572-51-7547 会員 70名 年会費 3,500 円</p> <p>*東濃さつき会家族会 会長 澤野 公子 設立：昭和 61 年（1986 年）5 月 会員 40 名 家族会は、毎月家族会たよりを発行し、第 2 土曜日の午後を基準に交流会、学習会、相談会などを行い、悩みを出し合い話し合っています。新年会、お花見なども行い、地域の福祉祭りなどにも参加します。</p>	<p>*ピュアハート姫 【就労継続支援 B 型】定員 30 名 【就労移行支援】定員 6 名 TEL : 0572-27-3744 FAX : 0572-51-7547</p> <p>*相談支援事業所ウィズ 【特定相談・障がい児相談】 TEL : 0572-51-4589 FAX : 0572-51-7547 〒507-0068 多治見市大藪町 849 番地 1</p> <p>*ドリームプラザ 【就労継続支援 B 型】定員 20 名 〒509-6121 瑞浪市寺河戸町 980 番地 TEL/FAX : 0572-56-0206</p>
<p>*東濃さつき会のあゆみ</p> <p>昭和 61 年（1986 年）5 月：東濃保健所の援助を得て東濃西部の 3 市 1 町の家族が集まり精神障がい者家族会を結成した。定期的に集まり、例会、デイケア、学習会などをおこなう。</p> <p>平成 31 年（1991 年）10 月：デイケアの参加者から「作業所をつくってほしい」と要望が出され、1990 年 2 月から家族会として取り組み、署名活動、資金集め、市町村との話し合いを重ね、瑞浪市寺河戸町に小規模作業所ドリームプラザ（東濃西部市町村福祉事業委託・定員 20 名）を開所する。箱折り、オリジナル商品（どくだみ茶、せっけん、かご織り）づくりを行えるようになる。</p> <p>平成 17 年（2005 年）9 月：「障害者自立支援法」が成立し、障がい者福祉サービスが市町村の事業から法定事業となり、法定事業を行えるよう東濃さつき会も法人格（特定非営利活動法人）を取得した。</p> <p>平成 19 年（2007 年）1 月：多治見市では、毎月喫茶店などに集まり、交流会、相談会などを行っていたところ、「多治見市にも作業所をつくってほしい」との要望が出され、多治見市と協議し 4 年がかりで多治見市大藪町の市の施設をお借りして小規模作業所・ピュアハート姫（多治見市社会福祉事業委託）を開所する。縫製、軽作業、オリジナル商品（クロスパッケンなど）、清掃などを行う。</p> <p>平成 21 年（2009 年）4 月：法定事業のどのサービスを選択するかを検討し、就労継続支援 B 型事業所（主たる事業所ピュアハート姫：定員 20 名、従たる事業所ドリームプラザ：定員 15 名）になる。</p> <p>平成 24 年（2012 年）2 月：ドリームプラザはより広くて、しっかりした建物を瑞浪市に要望し、現在の事業所（寺河戸町 980 番地）に移転する。</p> <p>平成 26 年（2014 年）10 月：通所するために相談支援事業所の特定相談を受けることが必要になり、</p>	

多治見市のピュアハート姫事業所内に相談支援事業所ウィズを開設する。(特定相談、障がい児相談)

平成31年(2019年)4月: 国庫補助金を得て、ピュアハート姫を現在地で新しく建替する(鉄骨2階建297.5㎡)。ピュアハート姫の就労継続支援B型の定員を30名にする。

ドリームプラザは就労継続支援B型の定員を20名にし、主たる事業所となる。

令和元年(2019年)7月: ピュアハート姫に就労移行支援事業(定員6名)をつけ加え、多機能型事業所になる。

* 家族会はこんな活動をしています

平成30年度(2018年度)

4月お花見と年間計画作成、5月定期総会、6月DVDを観て話し合い、ピュアハート姫通所者家族会、7月談話会、8月多治見市との意見交換会、9月DVD鑑賞談話会、瑞浪福祉祭り準備、10月瑞浪福祉祭り出店、11月東海・甲州ブロック研修会 in 高山にバスで参加(23名)、

12月多治見市街づくり懇談会、保健所家族教室、1月新年会、保健所家族教室、2月保健所家族教室、3月ピュアハート姫新築完成(鉄骨2階建て)事業所内覧会

平成31・令和元年度(2019年度)

4月家族会役員会、5月定期総会、7月年間計画作成会、8月談話会、9月保健所家族教室、瑞浪福祉祭り準備、10月瑞浪福祉祭り出店、保健所家族教室、11月みんなねっと愛知大会 in 刈谷に参加、保健所家族教室、12月家族交流会、1月オープンダイアログDVD鑑賞、多治見市との意見交換会、2月当事者、家族の相互理解DVD鑑賞

令和2年度(2020年度)

新型コロナウイルスの影響で行事ができませんでしたが、会場を変更し、毎月第2土曜日の午後10数名が集まって交流と学習、情報交換などを行っています。9月にはぎふかれんの「第36回知ってもらいたい心の病」を土岐市(72名参加)で行い、1月には「県精神保健福祉研修会」を多治見市で行います。

* 事業所はこんな様子です

ピュアハート姫: 就労移行支援(定員6名)・就労継続支援B型(定員30名)

通所者: 精神障がい者が多いですが、最近は発達障害、知的障害など幅広くなり、40名ほどが登録しています。通所も毎日から週1回、時間も1時間、午前、午後と一人ひとりに合わせて行ってもらっています。送迎が必要な人は送迎をおこなっています。

作業: 下請け作業だけでなく、自主製品(縫製など)も作り、福祉祭り、喫茶店、道の駅などで販売しています。また2年前、施設外就労(事業所2、農場1)もはじめました。新型コロナウイルスの影響で売り上げが減少しましたが、マスクをたくさん作り、地元で宣伝し、大幅に売り上げを伸ばしました。工賃アップをめざし、事業所前の田をお借りして8月より本格的に農業を始めました。

その他: 毎週水曜日のスポーツ、月1回のレクリエーション、毎年バスツアーも行い、生活相談・支援・援助を相談支援事業所などと協力して行っています。

ドリームプラザ：就労継続支援B型（定員20名）

通所者：精神障がい者だけでなく知的障がい者も多くなり、30名ほどが登録しています。毎日通所する人も多いですが、週2～3回、午前だけなど条件に合わせて通所してもらっています。送迎が必要な人が通所するようになり、送迎を行っています。

作業：下請け作業（自動車部品組立、アロマ商品ラベル貼り・梱包、乾燥果物計量・袋詰など）が多いですが、通所者の得意な縫製、毛糸などで製品づくりを行っています。

その他：特別支援学校からも通所者を受け入れ、8月に環境をよくするために倉庫を改装し新しく作業室をつくりました。毎月のデイケア、毎年のバスツアーも行い、生活相談・支援・援助を相談支援事業所などと協力して行っています。

NPO法人 東濃やまなみ会

JR 中津川駅から徒歩 3 分。まちなか商店を抜け、路地を曲がると地域活動支援センターふきのとうが見えてきます。34 年前、岐阜県東濃地域の精神障害者家族会が立ち上げた小さな作業所。たくさんの精神障害の人たちがここから新しい一歩を踏み出していきました。

●朝の一曲、全員あいさつ、3 行日記。そして所長のポケットマネー

朝 9 時前には、所長と利用者リーダーが交代でセコムを解除し、通所してくるメンバーを受け入れていきます。毎朝全員で NHK 朝ドラの「フレア」を歌って、「順番あいさつ」。人と関わるのが苦手なメンバーが、少しずつ心を開けるようみんなが優しく言葉を待ちます。仕事の後全員で書く「日報」、家で綴る「3 行日記」もふきのとうの名物です。一番失敗したこと、感動したこと、そして明日の目標を文字にして振り返り、どんなことでも「挑戦提案」があれば書き込みます。いい提案には所長のポケットマネーから報奨金も出ます。

●働くことで自分と向き合い、社会とのつながりを再認識。がんばる自分を素敵に思う

仕事は主にトヨタ自動車レクサスの部品の検品です。手指の感覚を研ぎ澄まして一つ一つ丁寧に検品し、小さな不具合も見逃さないと、親会社に信頼され、途切れることなく仕事をもらっています。トヨタの高級車も自分の検品があってこそ世に出る…自分自身への誇りとなっていくのではないのでしょうか。仕事の意味を仲間同士でいいいに伝え合います。

また、所長が元フトン屋で、綿入れの免許もあるので、「綿入り背負いねこ」の制作やアクリルたわしなどの小物づくりもします。商店街で毎月バザーをし、年 2 回の中仙道まつりでは店を出して地域を盛り上げます。テント張り、陳列、接客、値段交渉など先輩メンバーに励まされながら挑戦し、馴染みのお客さんに褒めてもらって、笑みがこぼれます。長い入院生活や、家でひきこもった生活から、一歩、二歩と外に向かって歩き出すために、当事者同士の力をおおいに借りながら、ゆっくり、じっくり関わっていくのです。

●小規模だからできること 「地域」にこだわるワケ

毎年、中津川からは、「就労継続 B 型に移行しませんか」と言われます。でも、私はこの活動スタイルを変えたくないのです。小規模だから、家族のように寄り添うことができる。いろいろな傷を抱えた人たちが、安心して発信し、受け止められている実感をもてる。丁度いい規模なのです。だから、ふきのとうは何人もの社会復帰者を送り出してきました。就労継続 B 型になれば、毎日通わないと事業者には給付が入らない。工賃をしっかりと上げないと支援費のランクが下がる。調子が悪い時は休め、自分のペースで通える保証があるのでしょうか。また、膨大な事務量をこなしていく人員も確保できるかわかりません。

かといって、このままでは、次の世代にバトンを渡せない。市町村任せではもう限界。常時 10 名の利用者(登録は 13 名)にサロンの運営、私も含めた 4 名の職員を年間 435 万円で運営するのはとても厳しいです。無認可時代 650 万円あった補助金も障害者自立支援法以降大きく減らされ、ここ 10 年はずっと据え置かれています。職員も 70 代後半が 3 名、一番若い事務局長も 63 歳です。初代所長は 88 歳まで務められましたが、私の代で終わってしまうのではないかと不安です。今、全国の精神障害者家族会も担い手の高齢化が大きな問題になり、家族会が運営してきた地域活動支援センターはどこも同じ悩みを抱えています。市町村任せではもう限界なのです。34 年、この町で築いてきた大切な居場所をなくすわけにはいかない。小規模ならではの良さが生かせ、若い人が飛び込んでこれるような安定運営ができるように国の制度を正面から変えてほしいと思います。

青葉の会

青葉の会 2020年（令和2年）現在

会長 大下恵子 〒506-0825 高山市石浦町9丁目13番地の1

TEL0577-33-3559

役員 副会長：村田幸子 会計：諏訪三千代 監事：松下照子

会員 15名

事務局 会長宅

沿革

家族会設立 昭和60年8月 会則の作成、施行

作業所設立 昭和62年 民家の提供により作業所開設（高山市神田町）

平成元年 高山市精神障がい者家族会「青葉の会」が運営母体となり小規模作業所「青葉の家」開設（高山市森下町に移転）

所長：大萱勝、指導員：木下直美、石坂操

作業内容：ボカシ、石鹸作り、ほうれん草袋詰め、菓子箱折等

通所者：30名～40名

平成19年4月 「青葉の家」の運営主体をNPO法人「ウエル・コミュニティー飛騨」に移行

平成22年 「青葉の家」と「空町作業所」が事業合併し「青空作業所」（高山市江名子町、理事長：柏木真司）となる。就労継続支援B型事業所として就労移行支援事業、高山市の委託事業・雇用促進事業等を運営し現在（2020年）に至る。

家族会活動

発足当初は古川町（現・飛騨市）の会員もあり、40～50名程度であったが、平成12年古川町に家族会が設立され、「友和会」として独立する。

家族会が小規模作業所の運営主体であった時は、通所者の家族は家族会員であり、活動も活発であったが、作業所の運営をNPO法人に移行したこと及び福祉制度の向上や会員の高齢化等により会員の減少が進む。

定例会 毎月第二木曜日

例会においては、会員相互の問題、悩みなどを共有し支え合う外、家族会運営のためのリサイクル活動の依頼や状況報告、及び市民団体・社会福祉協議会等のイベント参加、地域における精神保健福祉に対する理解や啓発の推進、行政や関係機関の出前講座等を通して学ぶ機会を持つ。

歴代会長

八野忠次郎、下出数夫、中口政枝、光賀浩子、大下恵子

主な活動

- 平成 10 年
精神障がい者福祉手帳サービス拡大署名活動
- 平成 12 年
第 33 回全国精神障がい者家族大会静岡大会に於いて全国表彰
- 平成 14 年 12 月 15 日
第 4 回「心の病」講演会 於・高山市民文化会館小ホール
- 平成 19 年 9 月 20 日
第 31 回岐阜県精神障がい者家族大会 in 高山 於・飛騨世界生活文化センター
- 平成 23 年 6 月
「こころの健康推進をわが国の基本政策に」の 100 万人署名全国一斉街頭署名活動
- 平成 23 年 9 月 3 日
こころの病を知る上映会と講演会 映画『破片のきらめき』 於・高山市民文化会館
- 平成 25 年 2 月 16 日
岐阜県精神障がい者等家族支援事業 映画『ちづる』上映と講演のつどい
於・高山市こくふ交流センター
- 平成 26 年 11 月 1 日
第 36 回岐阜県精神保健福祉会研修会 in 高山 於・高山市こくふ交流センター
- 平成 29 年 2 月 25 日
第 29 回「知ってもらいたい心の病」講演会 於・高山市民文化会館
- 平成 30 年 9 月 28 日
JR 運賃割引制度の適用を求める国への意見書採択を高山市議会議に請願。決議の本議会を傍聴し、請願は採択される。
- 平成 30 年 11 月 9 日、10 日
平成 30 年度甲州東海ブロック精神保健福祉促進研修会高山大会 於・高山市民文化会館
- 令和元年 8 月 29 日
濃飛バス本社に陳情。岐阜・高山間高速バス料金是正のお願い
(精神障がいのみ適用外のため。) 令和元年 12 月 1 日より手帳による割引が適用される。
1～3 級 (50%割引)

可茂地域家族会

可茂地区精神障がい者家族会 元家族会会長
宮崎 智

この度「ぎふかれんのあゆみ」を作るからと、加茂地区家族会も原稿の依頼を受けました。現在は会を解散して存在していませんが、家族会のあゆみを簡単に書きます。

昭和58年11月、中濃保健所館内において、身内に精神疾患を持つ者が助け合う会を、2市7町1村で設立しました。

当事者の病気再発防止や、社会参加と自立に向けて、情報の共有や研修を行い、当事者と家族の福祉増進をすすめる事を目的として活動をして参りました。定例会や懇談会を年数回催して研修を重ねて参りました。

なかでも平成24年7月揖斐峡徳山ダム～根尾谷断層地震観察館入館、日帰りバス旅行を行いました。19名の参加者があり、良き思い出として心に残っています。

平成19年4月に運営が、保健所から家族会移管されました。

平成25年3月にけんかれんから脱会して、加茂地区家族会単独となり、身軽に活動を続けましたが、会員の高齢化・新入会員の減少で活動が困難になり、昭和58年から37年余り続いた家族会を平成31年3月に解散することになりました。

最後に「けんかれん」の益々の発展をお祈り致します。

令和3年1月11日

編集後記

2019年度ぎふかれんの「あゆみ」概略版を令和2年2月に発行しました。更に、資料が散逸しないうちとの思いから、詳しい資料を掲載した2020年度「あゆみ」の作成を決定いたしました。概略版と同じく、主に「ぎふかれん誌」記載の内容を参考にしました。

創刊号（ぎふかれん結成10年後発行）には結成期の多くの情報が記載されていました。その後は、その時々活動などの情報を報告しています。何回も通読しました。創成期の大先輩たちの活躍と同時に、家族会への熱い思いや、精神保健福祉の医療・支援・行政への期待や要望が伝わってきます。

多くの方々から祝辞や思い出など投稿いただき、ありがとうございました。

内容について十分な検証ができていなく、不備な点もあると思います。ご指摘いただければ幸いです。

最後に、「家族による家族学習会」を今年度より実施しました。魅力ある家族会作りが後輩の私たちの仕事だと思います。

令和3年3月吉日

「あゆみ」編集委員会実行委員

山田偉雄・服部信子・野々時雄・筒井有紀子

表紙デザイン：横山 水紀

この冊子は、中日新聞社会事業団のご寄付で作成いたしました